

容易ニ真相ヲ極ムルヲ得ス蓋シ何レニセヨ左右何レニカ落着クニ非スンハ政府其自身瓦解スルノ外ナキニ依リ早晚一定ノ進路ヲ定ムルニ至ルト考ヘラレ其迄ハ我方トシテハ格別焦ルノ要モナカル可シ万事ハ以上申上ケタル現状ニ依リ適宜御判斷アラン事ヲ請フ

御參考迄ニ申進ス

長江筋ニ暗送シ在支公使ヘ転電シ奉天、天津、広東、濟南、青島、杭州ヘ暗送セリ

事項三 日中通商条約改訂問題

三九八 八月十四日

在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

孫伝芳、總商会及ビ各団体ノ外交部等ニ対ス
ル日中通商条約改訂ニ関スル申入レ報告ノ件

公信第六五二号

(八月二十五日接受)

大正十五年八月十四日

在上海

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支通商条約改訂ニ関スル件

在南京孫伝芳ハ蘇州交渉員ノ申出ニ基キ本年満期トナルヘキ日支通商条約改訂方外交部ニ申入ル所アリ之ニ対シ外交部ヨリ右改訂方ニ関シテハ目下準備中ナル旨回答アリタル趣伝ヘラレ居リタル処支那紙所報ニ依レハ当地總商会及ヒ上海杭紹綢業連合会等並ニ天津路等五路商連会ハ夫々左記訳文ノ通り外交部其他ニ対シ請願電報ヲ発シタル由ナリ尚今日迄ノ処支那紙ノ本件ニ関スル論評ヲ見ス

本信写送付先 北京 南京

左記

一、八月六日付上海總商会發外交部宛電報

白支条約及ヒ仏支間安南ニ関スル通商条約ハ本年期間満了スヘク貴部ニ於テハ既ニ兩國駐劄公使ニ命シ其失効ヲ声明セシメ別ニ修訂ヲ謀リ國權ヲ挽回セントセラレツツアルハ大イニ輿論ヲ満足セシムルモノナリ然ルニ光緒丙申ノ中日商約モ亦本年旧曆九月十四日満期トナルニ付白支仏支兩条約ノ弁法ニ照シ且ツ同条約第二十六條ニ依リ汪公使ニ電報シ予メ日本ニ対シ満期後同条約ノ効ヲ失スヘキコトヲ声明セシメ別ニ対等公平ナル弁法ヲ以テ更ニ条約ヲ締結シ挽救ニ資セラルル様懇願ス

二、上海杭紹綢業連合会鎮江綢業公所、上海錢江会馆、上海雲錦公所、盛澤綢業公所、上海縐業公所、駐滬吳興絲織公会、上海京綢公会ノ國務院及ヒ外交、財政、農商各部宛電報

中日条約ハ本年満期トナルヘキ処同条約ハ苛虐不平隱忍

已ニ久シ満期ノ上ハ当然完全ニ廃棄シ禁錮ヲ脱除スヘク
機會ヲ失フ勿レ華府會議最新原則条約第一条ノ記載ノ第
一ハ支那主權ノ尊重ニテ第二ハ支那ニ發展ノ機會ヲ与フ
ルコト第三ハ機ニ乘シテ特別ナル權利ヲ營謀スルヲ得サ
ルコトナリ此等ハ皆苛酷ナル条約改訂ノ根柢ナレハ總理
及ヒ總長ニ於テ至急籌備シ平等待遇ヲ以テ別ニ新条約ヲ
締結シ商人ノ困難ヲ除去シ國權ヲ挽回セラルル様切望ニ
堪ヘス

三、天津寧波広西貴州労合五路商連会発外交部宛電報

日支条約ハ締結以來十年毎ニ改訂ノ規定ニテ本年十月八
日ハ改訂期ニ当レリ日本ハ我國ヨリノ輸出品ニハ十割ノ
輸入税ヲ課シ居レルカ華府會議ノ最新原則第一条ノ規定
ニ依リ輸入税率五分ニ過キサル不平等条約ヲ改訂シ以テ
之ヨリ来ル種々ノ圧迫ヲ除去セラレタシ

三九九 八月二十三日 佐分利通商局長・斎藤局長代理等
打合會議要領

日中通商条約改訂問題打合せニ關スル件

付記 日中通商条約改訂問題ニ對スル大体方針

日支通商条約改訂問題ニ關スル打合

ス右期間經過後ニ於テモ之ニ応スルコト寧ロ實際的ナ
ルヘシ此ノ場合条約違反ノ非難ヲ避クル為ニハ右二十
六条ノ期間ヲ延長スル取極ヲ結フモ可ナリ

(三)改訂ノ提議ニ応シタルモ六月以内ニ改訂成立セサル場
合

条約ノ規定ニ依レハ此ノ場合旧条約ハ引継キ効力ヲ存
続スル旨ヲ規定セルモ我方ニ於テ右規定ニ基キ条約効
力ノ存続ヲ主張スルトキハ本条約ノ効力ヲ永久ニ存繼
セシムルコトトナリ所謂不平等条約ノ特質ニ依リテノ
ミ之ヲ主張シ得ルモノナルカ故ニ仮ニ我方ニ於テ改正
ニ關スル支那側ノ合理的提議ヲ容レサルカ為改正成立
セサルモノトセハ支那側ヨリ云ヘハ國家主權ノ作用ト
シテ之ヲ廢棄スル權利アリト主張スルコト勿論ナルヘ
ク之ニ對シ單ニ条約論ヲ以テ對抗スルコト困難ナルヘ
シ尤モ支那側ノ提案カ極端ニ趨リ之カ為改訂成立セサ
ルカ如キ場合ニハ我方ニ於テ右二十六条ノ規定ヲ基礎
トシテ条約廢棄ニ反對シ得ヘキモノト解セラル

尚廢棄ニ關スル支那ト他國間ノ条約規定ヲ見ルニ一八
五八年英支天津条約第二十七条ノ規定ハ大体日支条約

十五、八、二十三 於通商局長室

出席者 佐分利局長、斎藤局長代理、朝岡書記官、堀
内、秋山事務官、野田副領事、長岡属

一、本問題ニ對スル方針決定ノ為別紙項目ニ付審議ノ結果
大体左記要領ノ通打合せタリ

第一、日支通商条約第二十六条ノ解釈

(一)支那側ヨリ改訂ノ提議アリタル場合我方ニ於テ之ニ応
スル義務アリヤ

条約ノ明文ニ照シ之ニ応スルノ義務アリ

(二)改訂ノ提議ニ応セサル場合、支那ハ条約ヲ廢棄シ得ル
ヤ

我方カ右提議ニ応セサルコトハ即重大ナル条約違反ト
見做シ得ル故ニ支那側ハ之ヲ理由トシテ条約ヲ廢棄シ
得ルモノト解セラル

尚提議ヲ為シ得ル期間タル六月以後ニ於テ支那政府確
立シ改訂ノ提議ヲ為スカ如キ場合ニ於テ我方ハ之ニ応
スル義務アリヤ

敵格ナル条約ノ解釈ニ依レハ右ノ場合我方ニ義務無キ
モ条約ノ趣旨ニ依リ右六月ノ期間ヲ確定的ノモノトセ

ノ規定ト同様ニシテ唯明文ニ於テハ六月以内ニ改正ノ
要求ナキトキハ爾後旧条約ハ引継キ効力ヲ有スト定メ
日支条約ノ如ク「改訂ヲ要求シ且改訂セラレサルトキ
ハ」ト定メサルモ右ハ趣旨ニ於テ日支条約ノ規定ト同
様ナルヘント解セラル(若シ然ラスンハ單ナル改訂ノ
要求ニ依リ条約ヲ消滅セシムルカ如ク解セラレ極メテ
不合理ナリ)唯白支条約第四十六条ニ於テハ白國ノミ
カ改訂ヲ提議シ得ル如ク規定セラル

第二、政治上ノ考察

(一)支那政府承認問題トノ關係

支那側ヨリ条約改正ノ提議アリタル場合之ニ応シ正式
ニ改正ノ交渉ヲ為スハ場合ニ依リ政府ノ承認ト認メラ
ルル俱アルヲ以テ支那側ノ提議ニ對シテハ非公式ニ之
ヲ応シ單ニ事實上改正ニ關スル意見交換ヲ為スコトト
シ条約ノ調印ハ政府確立シ其ノ承認ヲ經タル後之ヲ行
フカ或ハ調印ニ依リ政府ヲ承認スルノ形式ニ依リ得ヘ
シ尤モ右交渉ニ際シ我方ノ委員ハ全然非公式ノ資格ニ
於テ交渉ヲ行フモ支那側委員ハ成ルヘク正式ニ任命セ
ラレタルモノトシ且出来得ル限り有力者ヲ選出セシム

ルコト得策ナルヘシ

支那政局ノ現状ヨリミテ単ニ中央政府トノ間ニ新条約ノ基礎ヲ協定スルモ地方權力者ヲシテ之ヲ支持セシメ得サルカ如キ場合アルヘク之カ為例ハ英國ノ如キハ特別會議ニ於テ決定スヘキ諸条約ニ付中央政府ノ外廣東政府トノ間ニモ別ニ取極ヲ為スヘシトノ意向ヲ有スルカ如キモ右ハ支那ノ統一ヲ破ルモノナルヲ以テ我方トシテハ之ニ依ルヲ得ス寧ロ中央政府トノ間ニ協定シタル条約ニ對シ地方ノ支持ヲ得ルカ如キ時期ニ至リ之カ調印ヲ行フコトスルノ外途ナカルヘシ

(二) 關稅特別會議及法權會議トノ關係

支那側不平等条約改正ノ目的中關稅自主權ノ回復及治外法權ノ撤廢ハ其ノ主ナルモノナル処前者ハ現ニ關稅特別會議ノ問題トシテ未タ其ノ決定ヲミサルモノニシテ後者ハ治外法權會議ニ於テ之カ撤廢ニ關スル勸告ヲ作成中ノモノニカカリ右ノ中治外法權撤廢ニ關シテハ大体ニ於テ法權會議ノ決定スヘキ勸告ヲ基礎トシテ之カ撤廢ヲ認ムルモ差支ナシト思考セラルル処自主權承認ニ關シテハ我方ニ於テ會議ト離レ单独ニ支那側ト交

渉スルコトハ會議ノ形勢及諸國トノ關係ヨリミテ頗ル「デリケート」ノ問題ナルヲ以テ寧ロ条約改正ニ當リテハ關稅問題ニ關シ單ニ最惠國待遇ヲ規定スルニ止メ之カ解決ヲ會議ニ一任スヘシトノ考察モアル処一方會議ノ前途ニ付確タル見込立チ難キト共ニ仮令近ク之カ繼續ヲミルトスルモ自主權承認ノ條件トシテ我方ニ於テ是非成立セシムルコトヲ必要トスル日支間稅率協定ノ問題ハ兩國貿易上ノ立場ヨリ見テ我方ニ有利ナル協定ヲ成立セシムルコト相當困難ナル事情モアリ他方特別會議ノ遷延スルカ如キ場合ニ於テ關係國カ支那トノ間ニ進ンテ条約改正ヲ行ヒ有利ナル稅率ヲ協定スルカ如キコトアリトセハ單ナル最惠國待遇ノ保障ノミヲ以テシテハ複雑ナル我方貿易上ノ利益ヲ十分ニ防護シ得サル危險アリ因テ条約改正ニ於テハ關稅問題ヲモ包含セシムルコトシ之カ解決ノ方針ハ關稅會議ニ於ケル我方ノ方針ト全然同一ノ方針ニ依リ即チ自主權ヲ承認シ稅率ノ協定ヲ行フト共ニ之ニ至ル迄ノ暫行規定トシテ會議ニ於テ各國專門委員ノ同意ヲ得タル差等稅率ヲ承認シ以上諸規定ノ實行ハ最惠國條款ニ依リ關係

各國ト同時ニ之ヲ認ムルコトスルニ於テハ關稅問題

ニ關スル我方既定ノ方針ノ遂行ニ何等支障ナキノミナラス却テ之ニ依リ關係各國ヲシテ速ニ關稅會議ヲ繼續セシムルノ誘因トモ為シ得ヘシ加之關係國ニ對シテハ予メ本件条約改正ノ開談及關稅問題ヲ包含セシムルノ已ムヲ得サル事情ヲ説明シ我方ニ於テハ右交渉ニ際シ關稅會議ニ於ケル我方既定ノ方針及各國側ノ意向ヲ参照シテ關稅問題ノ解決方ヲ討議スヘク且關稅會議繼續ノ場合ニハ本問題ヲ會議ニ復帰セシムルニ異存無キ意向ナル旨ニ付其ノ諒解ヲ得置クニ於テハ諸國トノ關係上何等支障無キモノト認メラル

第三、条約改正ノ範圍

(一) 通商条約第二十六條ノ規定ニ依リ改正ヲ提議シ得ヘキ条約ハ

- (A) 一八九六年日支通商航海条約
- (B) 同議定書
- (C) 支那輸出入稅率表及付屬規程
- (D) 一九〇三年日支追加通商航海条約
- (E) 同付屬書

ナルヘシト解セラルルモ支那側ニ於テハ右ノ外日支媾和条約中通商ニ關スル條項其ノ他日支間通商事項ニ關スル各種ノ條約取極等ノ改正ヲモ提議スヘシトモ認メラルルノミナラス此等條約取極中前記五條約ノ改正ノ結果當然消滅スルモノモ有ルヘキニ付通商ニ關スル日支間條約又ハ取極ノ全体ニ付之カ改正又ハ消滅ノ結果如何ヲ研究スル要アリト認ム

(二) 相互の基礎ニ因リ改正ヲ行ヒ差支ナキ事項ノ範圍

本項ニ關シテハ前記日支間諸條約ノ各條項ニ付具體的ニ研究ノ上決定スヘシ

第四、新條約ノ締結ニ際シ特ニ注意上要スル事項

(一) 最惠國條款

本問題ニ關シ支那當局ハ自主權承認ト同時ニ日支間ニ成立スヘキ稅率協定ヲ成ルヘク他國ニ均霑セシメサル為メ各國トノ現行通商條約ニ於テ採用スル片務的無條件最惠國條款ヲ相務的ニスルト同時ニ之ヲ有條件トセントノ希望ヲ有シタルモ右ハ余リニ急激ノ變更ニシテ各國ノ承認ヲ得ルコト頗ル困難ナルヘキ旨ヲ諒得シ今日ニ於テハ大体無條件主義ヲ採用セントスル意向ナル

カ如シ

(二) 国民待遇保障問題

本項ニ関シテハ支那現情ヨリ見テ法制ノ不備行政官ノ手心等ノ為法規ノ適用全国一様ナルヲ期待シ得ス又從來ニ於ケル外人權利偏重ノ反動トシテ内国人ヲ外国人ヨリモ有利ナル地位ニ置クヘシトノ思想相当強キカ故ニ内国民待遇ヲ保障スルモ之カ実効ヲ予期シ得サル事情アリ

(三) 我方ニ於テ相互主義ニ依ルヲ困難トスル事項

(a) 入国居住移転ノ自由

支那人入国取締ニ関スル本邦現行制度ヲ改正セサル限り相互主義ニ因ルコト困難ナルカ仮リニ現行制度ヲ改メ入国ヲ自由トシ居住移転營業等ノ取締ニ依リ間接ニ支那人ノ入国ヲ制限セントスルカ如キ場合ニ於テモ在支本邦人カ同様ノ制限ヲ受クルコトヲ覚悟セサルヘカラス

(b) 土地所有權問題

外国人土地所有權享有ニ関スル本邦法制ノ現情ヨリ見テ本件相互の規定ヲ設クルモ本邦人カ支那ニ於テ

カ進テ本邦沿岸貿易ニ從事スルニ至ランコト自然ノ勢ナルヲ以テ之ヲ防クカ為右相互の規定ニ於テ適當ノ措置(例ハ本邦沿岸貿易ニ從事シ得ル支那船舶ハ善意ニ支那ノ国籍ヲ有シ且支那人ニヨリ善意ニ所有セラルルモノタルコトヲ必要トスルカ如シ)ヲ講スルコト必要ナルヘシ

(d) 陸境關稅輕減率問題

華府條約第六條ノ規定ニ依リ現行支那陸境關稅輕減率ヲ廢止シタル後ニ於テモ相互主義ニ依リ適當ノ範圍ノ輕減率ヲ協定スルコトハ華府條約關係國ニ於テ左マテ反對セサルノミナラス其ノ範圍ヲ地方的貨物ニ局限スルニ於テハ海港條約ノ規定ニモ反セサルモノト解セラルルノミナラス支那側ニ於テハ條約改正ニ際シ右ノ趣旨ニ依リ陸境輕減率ノ協定ヲ為スコトハ異存無カルヘシト認メラルル処我方ニ於テ支那ニ對シ相當ノ輕減率ヲ許容シ得ルヤ否ヤニ付朝鮮ノ財政國內産業等ノ事情ヲモ考慮シ予メ其ノ方針ヲ定メ置ク必要アリ

第五、支那側ヨリ改訂ノ提議アリタル場合之ニ応スルノ可

土地所有權ヲ享有シ得ルノ時期ハ近ク之ヲ期待シ得サルヘク且支那ニ於テハ現ニ他國人ノ土地所有權ヲ享有シ居ルモノ無キヲ以テ日邊條約ニ於ケルカ如ク單ニ最惠國待遇ヲ保障スルノミニテハ其ノ目的ヲ達シ難ク結局本件ニ付テハ相互主義ヲ保障シナルヘク速ニ本邦ニ於テ必要ナル立法手續ヲ完了スルノ外途無カルヘシ

(c) 沿岸貿易開放問題

本邦船舶ノ支那沿岸貿易ニ從事スル噸數ハ一九二四年度ニ於テ支那沿岸貿易ニ從事スル全体ノ船舶噸數ノ約二割ヲ占メ今後更ニ増加スヘキ趨勢ニアルヲ以テ支那ヲシテ引続キ沿岸貿易ヲ開放セシムルコト極メテ必要ナル処沿岸貿易ニ関スル我方條約改正ノ方針ハ相互主義ニ依リ之カ開放ヲ保障スルニ在ル処支那トノ間ニ相互のニ之カ開放ヲ約束スルコトトセハ直ニ支那船舶ノ本邦沿岸貿易ニ從事スルモノ左程多カラサルヘキモ現ニ支那ノ沿岸貿易ニ從事スル外國船舶頗ル多ク(一九二四年度ニ於テ支那沿岸貿易ニ從事スル英國船舶噸數ハ全噸數ノ約四割)此等船舶

否

以上考察シタル点ヨリ見ルニ日支間現行通商條約ヲ其ノ儘引続キ繼續セシムルコトハ支那ノ國論ニ鑑ミ到底不可能ナルコトニシテ早晚之カ改正ヲ認ムルコト已ムヲ得サル儀ナル処右改正ニ際シ支那側ノ極端ナル相互主義ヲ緩和シ出來得ル限り我經濟的利益ヲ防護スルニ必要ナル規定ヲ認メシムルカ為ニハ寧ロ我方ヨリ率先シテ原則トシテ相互主義ニ依ル改正ヲ認メ直ニ改正ノ交渉ヲ始ムル方大局ニ於テ得策ナリト認メラレ又關稅會議從ツテ關係國トノ關係ニ付テハ前述ノ趣旨ニ從フニ於テハ何等支障ナキモノト認メラルルカ故ニ支那側ヨリ提議アリタル場合ニハ之ヲ応諾スルコト致シ度ク又右支那側ノ提議ヲシテ條約廢棄ノ如キ極端ナル措置ニ出テサラシムル為ニハ寧ロ支那側ノ提議ニ先シ我方ニ於テハ支那ノ國民の希望タル條約改正ノ意アルコト及右改正ヲ成立セシムルカ為ニハ支那側ノ希望カ我國民ヲ承服セシムルカ如キ合理的ノモノナルコトヲ必要トシ條約廢棄ノ如キ極端ナル行動ニ出ツルニ於テハ却テ事態ヲ紛糾セシムルノ惧アル旨予メ支那側ノ注意ヲ喚起スルカ如キ措置ヲ執ルコト必要ナ

リト認ム

日支通商条約改正問題

第一、本問題ニ関スル最近ノ経過

第二、条約ノ解釈

(一)改訂ノ提議ニ応スル義務アリヤ

(二)改訂ノ提議ニ応セサル場合支那ハ条約廢棄ヲ為シ得ルヤ

(三)六月以内ニ政府成立セス六月後ニ提議アリタル場合

(四)改訂ノ提議ニ応シタルモ六ヶ月以内ニ改訂成立セサル

場合

第三、政治上ノ考察

(一)支那政府承認問題トノ關係

(二)關稅特別會議及法權會議トノ關係

(三)關係國トノ關係

第四、日支間稅率協定問題トノ關係

第五、条約改正ノ範圍

(一)通商条約第二十六条改正ニ関スル規定ノ適用ヲ受クヘ

キ条約協約

A、一八九六年日支通商航海条約

(三)我方ニ於テ相互主義ニ依ルヲ困難トスル事項

A、入国居住移転ノ自由ノ問題

B、土地所有權問題

C、沿岸貿易開放問題

D、陸境關稅輕減率問題

E、其ノ他

第七、支那側ヨリ提議アリタル場合之ニ応スルノ可否

(付記)

日支通商条約改正問題ニ対スル大体方針

本件ニ関シ本年八月二十三日通商局トシテ別紙

ノ通打合ヲナシタル処其ノ内支那政府ノ提議ニ

対スル我方態度ニ関スルモノヲ上局御参考迄摘

記スレハ次ノ如シ

一、日支通商条約第二十六条ノ解釈上支那側ヨリ日支通商条約改訂ノ提議アル場合我方ニ於テハ之ニ応スルノ義務アルコト同条約第二十六条ノ解釈上明ナル処ニシテ六ヶ月以内ニ改訂商議妥結セサル場合ニ現行条約ノ存続ヲ主張シ得ルヤ否ハ一ニ支那側ノ改訂提議カ公正ナルヤ否ヤニ係ルモノニシテ仮ニ支那側ノ提議カ合理的ナルニ拘ラ

B、同議定書

C、支那輸出入稅率表及付屬規程

D、一九〇三年日支追加通商航海条約

E、同付屬書一号乃至七号

F、日支媾和条約第六号第一号乃至第四号

G、其ノ他

(二)相互的ノ基礎ニ依リ改正ヲ行ヒ差支ナキ事項ノ範圍

A、關稅上ノ片務的制限

B、治外法權撤廢問題

C、其ノ他ノ諸事項

D、現行日支間条約ニ規定セサル事項ニシテ支那ト他

國トノ条約ニ規定セラルルモノノ中新条約ニ挿入ス

ルコトヲ必要ト認ムル事項

E、我國ト欧米諸國トノ通商条約ニ規定スヘキ事項ニ

シテ日支間条約中ニ規定セラレサルモノニシテ新条

約ニ規定スルヲ要スル事項

第六、新条約中特ニ注意ヲ要スル事項

(一)最惠国條款問題

(二)國民待遇保障問題

ス我方ニ於テ之ヲ容レサルカ如キ場合ニハ支那ハ之ヲ理由トシテ条約ノ廢棄ヲ主張シ来ルヘク之ニ反シ支那ノ提議カ極端ニ趨リ之カ為改訂成立セサルカ如キ場合ニハ我方ニ於テ右第二十六条ノ規定ヲ基礎トシ現行条約ノ存続ヲ主張シ得ルモノト解セラル

二、支那政局ノ現状ヨリ見ルニ条約改正ヲ正式ニ交渉シ得ヘキ確立セル政府無キハ事實ナルモ而モ中央政府カ何等ノ實力ヲ有セスシテ存立スル所以ハ國民黨一派カ國民ノ輿望ヲ集中スル為唱道シ来リタル不平等條約ノ廢止ニ向ツテ努力シツツアルカ為ニシテ即チ條約改正ハ中央政府存立ノ基礎ヲ為スモノナルヲ以テ我方ニ於テ支那側ノ提議ヲ拒否スルカ如キ場合ニハ其ノ結果頗ル寒心スヘキモノアリト認メラルモノアルノミナラス之ヲ實際ニ徵スルニ最近ニ於ケル廣東附加稅問題山東ニ於ケル貨捐問題ヲ始メ其ノ他ノ地方ニ於ケル支那官憲ノ條約違反行為ハ枚舉ニ遑アラス之ニ対シ關係國ハ単ニ形式的ノ抗議ヲ提出スルニ止リ之ヲ強行スルコト能ハス他方租界擴張問題等在支外人ノ經濟的發展ニ必要ナル各種施設ノ計畫ハ一モ支那側ノ承認ヲ得サル狀態ニ在リ如斯ハ一面支那官憲

ノ無法不節制ナルト利権回収思想ニ依ルコト勿論ナルモ他面現行条約カ時勢ノ變遷ニ適合セス之ニ定ムル權利カ相当無理ナルニ因ルトモ認メラルル処此ノ如キ時勢ニ処シ邦人ノ對支貿易乃至企業等ノ經濟的發展ヲ防護スル為ニハ現行条約ヲ改正シ支那ヲシテ充分首肯セシメ得ルカ如キモノト為スヨリ外途ナシト認メラルルヲ以テ現行条約ノ改正ハ此ノ意味ヨリ云フモ単ニ条約上ノ義務トシテ已ヲ得ス之ヲ認ムルヨリハ行キ詰レル現状ヲ改善スルカ為我方ヨリ進テ之ヲ行フコト寧ロ得策ナリト認メラル

三、支那側不平等条約改正ノ目的中関稅自主權ノ回復及治外法權ノ撤廢ハ其ノ主ナルモノナル処其ノ中治外法權撤廢ニ関シテハ大体ニ於テ法權會議ノ勸告ヲ基礎トシテ之カ撤廢ヲ認ムルモ差支ナカルヘク自主權承認ニ関シテハ我方ニ於テ特別會議ト離レ單獨ニ支那側ト交渉スルコトハ會議ノ形勢及諸國トノ關係ヨリ見テ頗ル「デリケート」ノ問題ナルヘキモ會議ノ前途ニ付確タル見込立チ難キト共ニ仮令近ク之カ繼續ヲ見ルトスルモ自主權承認ノ條件トシテ我方ノ重ヲ置ク日支關稅率協定ノ問題ハ兩國貿易上ノ立場ヨリ見テ我方ニ有利ナル協定ヲ成立セシムルコ

特別會議ノ關係モ考慮シテ正式交渉ニ移ルコトト致シ度シ

右大体方針ニ基キ現行条約ノ改正ヲ要スル事項及之カ改正案ニツキテハ引續キ攻究中ニシテ近ク大体ノ試案ヲ作成シ得ル運ニアリ

(別紙一)

回答文案

(通商局私案)

支那国政府外交部ハ大正十五年十月二十日付書簡ヲ以テ日本国外務省並北京駐劄日本国公使ニ對シ明治二十九年七月二十一日調印ノ日支通商航海条約同上付屬文書及同年十月十九日調印ノ同上付屬議定書並明治三十六年十月八日調印ノ日支追加通商航海条約及同上付屬文書ヲ条約ノ規定ニ照シ一律ニ根本的ニ改訂セムコトヲ提議セラレタル処日本国政府ニ於テハ右提議ニ對シ前記諸条約及付屬文書ノ規定ニ鑑ミ且又日支兩國ノ国交並兩國國民ノ親善ノ大局ニ顧ミ慎重ナル考量ヲ加ヘタリ

惟フニ日支ノ親交ハ東洋平和ノ基調ニシテ兩國共榮ノ根源タリ日本国政府ニ於テハ深ク茲ニ稽ヘ夙ニ日支親善ノ根本方針ヲ確立シ終始一貫之カ実現ニ努力シ殊ニ支那國民一般

ト相当困難ナル事情モアリ他方單ナル最惠國待遇ノ保障ノミヲ以テシテハ複雑ナル我方貿易上ノ利益ヲ十分ニ防護シ得サル危險アリ因テ条約改正ニ依リ關稅問題ニ關スル我方既定ノ方針ヲ遂行スルコトトシ即チ自主權ヲ承認シテ稅率ノ協定ヲ行フト共ニ之ニ至ル迄ノ暫行規定トシテ會議ニ於テ各國專門委員ノ同意ヲ得タル差等稅率ヲ承認シ以上諸規定ノ實行ハ最惠國條款ニ依リ關係各國ト同時ニ之ヲ認ムルコトスルニ於テハ却テ之ニ依リ關係各國ヲシテ速ニ關稅會議ヲ繼續セシムルノ誘因トモ為シ得ヘシ加之關係國ニ對シテハ予メ右ノ点ニ付十分ノ諒解ヲ得置クニ於テハ諸國トノ關係上何等支障無キモノト認メラル

四、以上述フルカ如ク現行日支通商条約ノ改正ハ一面条約上ノ義務タルト同時ニ成ル可ク早キニ於テ之ヲ行フコト我方ニ有利ナリト認メラルルヲ以テ支那側ヨリ改訂ノ提議アリタル場合ニハ之ヲ應諾スルコトト致度キ処支那政局ノ現状竝特別會議ノ行懸等ニ鑑ミ現在ノ政府ト正式ノ交渉ヲ為シ得サルコト勿論ナルヲ以テ差當リ彼我專門委員ノ間ニ非公式意見ノ交換ヲ行ハシメ政情ノ安定ト共ニ

ノ切實ナル要望ニ對シテハ常ニ真摯ナル同情ヲ以テ之ヲ迎ヘ其ノ公正且合理的ナル提議ニ就テハ友好ノ誠心ヲ以テ常ニ之ニ応スルノ覚悟アルコト日本国政府ノ從來屢々宣明セル所ニシテ現ニ最近ノ關稅特別會議ニ於テモ支那國民多年ノ要望達成ノ為日本全權カ努力ヲ惜マサリシ所以亦茲ニ存ス仍テ今次支那政府ノ提議ニ對シ右根本方針ニ基キ誠意ヲ以テ之ニ応ジ日支共存共榮ノ基礎ニ於テ相互平等ノ原則ヲ參酌シ速ニ条約改訂ノ商議ヲ遂ケ相互ニ満足ナル新条約ヲ完成シ以テ兩國誠心親善ノ基礎ヲ確立センコトヲ切實ニ希望ス從テ日支通商航海条約第二十六條ノ規定ニ拠レハ締約國ノ一方ヨリ提起シ得ヘキ改訂ノ要求ハ稅目及本条約ノ通商ニ關スル條款ノ範圍ニ限ラルルタメ支那国政府カ条約ノ規定ニ基キ改訂ヲ要求セラルル事項ハ右條款ノ範圍ニ屬スルモノト了解セラルルモ日本国政府ハ広ク支那國民一般ノ切實ナル希望ニ基ク提案ニ對シテハ其ノ合理的ナル限り仮令前記条約規定以外ノ事項ニ屬スルモノト雖モ改訂商議ニ際シ友好的考量ヲ加フルニ吝ナラス

尚日本国政府ハ日支兩國間ニ存スル經濟商業及人民ノ緊密ナル關係カ兩國条約關係ノ急激ナル變更ニ因リ著シク阻礙

セラレサル様適當ノ措置ヲ講スルノ必要ヲ痛感スルモノナル処外交部書翰中ニ本件諸条約ノ規定ヲシテ両国間經濟商業及人民ノ關係ニ適応セシメムカ為之カ根本的改訂ヲ希望スル趣旨ヲ指摘セラレタルニ鑑ミ支那国政府ニ於テモ固ヨリ此ノ点ニ関シ何等異議ヲ有セラレサルモノト了解ス將又同書翰中ニ於テ支那国政府ハ「若シ条約改正ノ期間満了シ新条約ノ成立ヲ見サル場合ニハ支那国政府ハ旧条約ニ対スル態度ヲ決定シテ之ヲ宣示セサルヲ得ス此点ニ関シ支那国政府ハ玆ニ特ニ其ノ当然享有シ得ヘキ權利ヲ留保スルモノナルコトヲ声明スル」旨指摘セラレタル処日本国政府ハ右声明カ支那国政府ニ依リ日支両国間ニ現存スル友好關係及両国国民間ノ相互信賴ヲ累スルノ意思ヲ以テ為サレタルニ非サルモノナリト了解ス

前述日本政府ノ了解ハ今回支那国政府カ本件日支間諸条約ノ改訂ヲ提議セラレタル趣旨ト全然合致スルモノト思考セラルルヲ以テ日本政府ハ右ノ了解ニ基キ前記ノ通り支那国政府今次ノ提議ヲ応諾シ速ニ商議ヲ開始センコトヲ希望スルモノナリ

(別 紙二)

ヲ声明スルニ躊躇セサル所ナリ

翻テ日支通商航海条約第二十六条ノ規定ニ拠レハ締約國ノ一方ヨリ提起シ得ヘキ改訂ノ要求ハ税目及本条約ノ通商ニ関スル條款ノ範圍ニ限ラルルコト明白ナルヲ以テ外交部ニ於テ条約ノ規定ニ照シ權利トシテ改訂ヲ要求セラルル事項ハ右條款ノ範圍ニ屬スルモノト了解ス同時ニ日本国政府ハ広ク支那国民一般ノ切実ナル希望ニ基ク提案ニ就テモ其ノ合理的ナル限り仮令前記条約規定以外ノ事項ニ屬スルモノト雖改訂商議ニ際シ友好的考慮ヲ加フルニ吝ナラス要スルニ支那国今次ノ提議ニ対シ日本国政府ハ誠意ヲ以テ之ニ応ジ日支共存共榮ノ基礎ニ於テ平等相互ノ原則ヲ参酌シ速ニ条約改訂ノ商議ヲ遂ケ相互ニ満足ナル新条約ヲ完成シ以テ両国誠心親善ノ基礎ヲ確立スルコトヲ切実ニ希望スル旨回答スルノ光榮ヲ有ス

然リト雖外交部書翰中特ニ「尚新条約ノ成立ヲ見サル場合ニハ支那国政府ハ在来ノ条約ニ対スル態度ヲ決定シテ之ヲ宣示セサルヲ得ス此ノ点ニ関シ支那国政府ハ玆ニ特ニ其ノ当然享有シ得ヘキ權利ヲ留保スルモノナルコトヲ声明ス」トノ一節ニ至テハ日本国政府ノ諒解ニ苦ム点ナリ蓋シ日支

回答文案

(亞細亞局私案)

支那国政府外交部ハ大正十五年十月二十日付書翰ヲ以テ日本外務省並北京駐劄日本国公使ニ対シ明治二十九年七月二十一日調印ノ日支通商航海条約同上付屬交換公文及同年十月十九日調印ノ同上付屬議定書並明治三十六年十月八日調印ノ追加通商航海条約及同上付屬文書ヲ条約ノ規定ニ照シ一律ニ根本的ニ改訂セムコトヲ提議セラレタリ日本国政府ニ於テハ此ノ重大ナル提議ニ対シ右諸条約並付屬文書ノ規定ニ鑑ミ將又日支兩國ノ国交並兩國国民ノ親善ノ大局ニ顧ミ最慎重ナル考量ヲ加ヘタリ惟フニ日支ノ親交ハ東洋平和ノ基調ニシテ兩國共榮ノ根源タリ日本国政府ニ於テハ深ク玆ニ惟ル所アリ夙ニ日支親善ノ根本方針ヲ確立シ終始一貫之カ実現ニ努力シ殊ニ支那国民一般ノ切実ナル要望ニ対シテハ常ニ真摯ナル同情ヲ以テ之ヲ迎ヘ其ノ公正且合理的ナル提議ニ就テハ友好ノ誠心ヲ以テ常ニ之ニ応スルノ覚悟アルコト日本国政府ノ從來屢々宣明セル所ニシテ現ニ最近ノ關稅特別會議ニ於テモ支那国民多年ノ要望達成ノ為日本全權カ努力ヲ惜マサリシ所以亦玆ニ存ス今次ノ提議ニ対スル日本国政府ノ態度モ亦右根本方針ヲ以テ終始スヘキハ予メ之

通商条約改訂ノ商議ハ日支兩國国民ノ誠心熱望ニ基キ相互信賴ニ依リテ終始スヘキハ言ヲ俟タサル処ナルニ右商議開始ニ先チ交渉当事國ノ一方ヨリ予メ本件商議不調ノ場合ニ処スヘキ不快ナル声明ヲ单独ニ宣示スルカ如キハ他ノ当事國政府及国民ヲシテ却テ對手國ノ誠意ニ一種ノ疑念ヲ挿マシムルノ外何ノ益アリヤ疑ナキ能ハス若シ夫レ右留保權利ノ性質並其ノ存否ニ就テハ之ヲ条約ノ規定ニ顧ミ日本国政府ノ了解シ得サル処ニシテ単ニ支那国政府ノ態度ヲ決定シ之ヲ宣示スルノ意ナリセハ其ノ必要生シタル場合ニ之ヲ考慮セラルルモ敢テ遲シトセサルヘク旁々日本国政府ハ外交部書翰中前掲ノ一節ニ対シテハ直チニ賛意ヲ表シ得サルヲ遺憾トス

四〇〇 九月八日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

北京全國連合会ヨリ外交部二日中通商条約廢棄方要請シタル旨ノ新聞記事報告ノ件

公信第四二九号

(九月十七日接受)

大正十五年九月八日

在天津

総領事 有田 八郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日清通商航海条約ノ期限満了ニ当リ廃棄方呈請ニ

関スル新聞記事ノ件

本件ニ関シ九月五日当地漢字新聞ニ別紙ノ如キ記事アリタルニ付御参考迄ニ報告ス

写送付先 在支公使

(別紙)

中日各約ノ満期ニ当リ廃棄方ノ呈請

大正十五年九月五日益世報記事

天津総商会ハ昨日北京全国連合会ヨリ左ノ来信ニ接シタリ上海雲錦公所等八公団ヨリ本会ニ宛タル公電ニ依レハ「中日各約ハ本年ヲ以テ期限満了トナルヘキトコロ該約ハ苛虐不平等ニシテ中国ノ隱忍スル事既ニ久シケレハ今回ノ期限満了ヲ以テ完全ニ之ヲ廃棄シ束縛ヲ脱除スル機会ヲ逸セサランコトヲ査スルニ華府會議条約ハ最新ノ締結ニシテ其第一条ニハ(一)中国主權ノ尊重(二)中国ニ發展ノ機会ヲ与ヘ(三)中国ノ状況ニ因リ機ニ乗シテ特殊權利ヲ獲得スルヲ得ス等ノ条項ハ何レモ苛約改革ノ根拠ヲ示セルモノナレハ此際総

理及総長ハ務メテ之ニ注意シ速ニ準備ヲ為シ以テ平等待遇ノ新約ヲ訂結シ國權ヲ挽回セラレン事ヲ請フ云々」ト八月二十一日付ヲ以テ本会ニ提案シ来レルニ付本会ハ第五十一次評議會ニ於テ本案ヲ討論公決シタル次第ナリ惟ニ中日各約ノ締結當時ハ確ニ偏頗ノ弊アリ双方平等タルヲ得サリシモ該約ハ本年ヲ以テ満期トナルヘキニ付其廃棄聲明方ヲ外交部ニ呈請シ以テ一切ノ不平等条約廢除ノ先声タラシムヘキナリ而シテ新約ノ改訂ニ当リテハ務メテ前失ヲ改メ平等ノ原則ヲ堅持シ以テ華府會議ノ精神ニ合セシメ外交刷新ノ機会ヲ利用シテ國權ヲ鄭重ニセラレタク又新訂約ノ際ハ全國公団ヲ其討議ニ参与セシメ以テ政府ヲ後援セシメラレン事ヲ希望ス

以上ノ各節ハ外交部ニ呈請シ貴会へ通報スル次第ニ付注意セラレン事ヲ請フ云々

四〇一 九月二十七日

在重慶後藤領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

重慶總商会ヨリ外交部ニ対スル日中通商条約

廢棄方要望ニツキ報告ノ件

機密第二四八号

(十月十六日接受)

大正十五年九月二十七日

在重慶

領事代理 後藤 禄郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支通商条約廢除ニ関スル件

当地商總會ニ於テハ日支通商航海条約第二十六条ノ規定ニ照ラシ所定期限内ニ不平等の条約ノ廢止ヲ声明セシムヘク北京外交部ニ対シ別紙写ノ通り正副会長ノ名義ヲ以テ電報ヲ発シタル趣ニ付何等御参考マテニ此段報告申進ス

本信写送付先 在支公使 漢口總領事

(別紙)

總商会力爭廢除中日商約

北京外交部總次長鈞鑒、中日商約、極不平等、吾國受此縛束、國體商務皆有絶大影響、商民茹忍至今、言之滋痛、仰懇貴部查照該約第二十六条規定、在限期内聲明廢止、一面依摠華府會議原則、另訂新約、在新約未經換文以前、彼此均依相互平等主旨、弁理、時機迫切、万祈毅力主持、期達美滿目的、藉挽前失、全國幸甚、並希屆時召集全國公団、得參獻替、以為河海細流之一助、即乞垂鑒、重慶總商会正

副會長曾鼎勉李信玉叩敬印、

(右外交部宛電報訳文)

日支通商条約ハ極メテ不平等ニシテ吾國ハ本条約ノ束縛ヲ受ケ國體ニ商務ニ均シク絶大ノ影響有リ商民ハ隱忍今日ニ至リシモ之レヲ思ヘハ實ニ痛切ニ堪ヘサルナリ

貴部ハ該条約第二十六条ノ規定ニ照ラシ期限内ニ右条約ノ廢止ヲ聲明シ一面華府會議ノ原則ニ拠リ別ニ新条約ヲ訂定シ新条約ノ成文交換ヲ經サル以前ハ總ヘテ相互平等の主旨ニ依リ處理セラレ度シ時機迫切ノ折柄ナレハ毅力ヲ尽シテ主持シ満足ナル目的達成ヲ期シ以テ前キニ失ヒタル処ノモノヲ挽回セラレナハ全國ノ幸甚トスル処ナリ並ニ時ニ至リ全國ノ公団ヲ召集シ貢獻ニ参与セシメ河海細流ノ一助トセラレンコトヲ希望ス茲ニ御垂察ヲ乞フ

重慶總商会會長曾鼎勉 副會長李信玉

四〇二 九月二十九日

幣原外務大臣ヨリ
在中国壩臨時代理公使宛

日中通商条約改訂參考資料送付ノ件

付記 亞細亞局私見「日支通商条約改訂問題ニ関スル件」

通一機密第二六八号

日支通商条約改訂參考資料送付ノ件

貴電第六〇五号ヲ以テ御申越アリタル日支通商条約改訂ニ
關スル左記參考資料各五部宛送付ス

追テ右資料中我方ノ方針ニ關スルモノハ通商局ニ於テ目
下研究中ノ未定稿ナルニ付右御含置アリタシ

記

一、對支各國不平等條約改訂問題

付録第一乃至第五及第三ノ付屬

第一号乃至第十六号

一、對支對等條約ヲ締結シタル諸國

付屬第一号乃至第五号

一、日支通商條約中不對等ナル條項

一、日英日支兩條約比較

一、日支通商條約第二十六條ニ關スル「ベティ」博士意見

一、日支通商條約改正問題

一、日支通商條約改正問題ニ關スル打合

一、日支間通商航海ニ關係アル條約、協約、取極、交換公

文

ニ足ラサル旨ヲ以テシ居レル処白國トノ間ハ同國トノ條
約ノ修正條項ニ依ルニ他ノ列國ノ分ト異リ改訂要求權カ

一方のニ同國ニノミ存スル關係ヲモ考慮シタルモノカ本
年四月改訂要求期限經過シタル後最近ニ至リ支那側ヨリ
白清條約ハ本年十月二十七日ヲ以テ終結シ其ノ以前新條
約ノ取極ナキトキハ兩國ノ關係ハ兩國ノ正當否ムヘカラ
サル權利ヲ認メタル臨時弁法ニ依リ規律スルノ外ナキ旨
ヲ通告シ之ニ對シ白國ハ支那側ノ要求ハ右白清條約修正
條項ノ解釋上將又支那中央政府ノ現地位ニ顧ミ明ニ無理
ナリト認メラルルモ妥協ノ趣旨ニ依リ現行條約ヨリ右修
正條項ノミヲ削除シタルモノヲ以テ暫行取極トスルニ異
議ナキ旨八月四日付ヲ以テ支那側ニ申入レ同時ニ此ノ措
置ニ對スル華府條約關係諸國ノ好意的援助ヲ希望シ若シ
支那側ニ於テ右八月四日以後一ヶ月以内ニ白國ノ希望ヲ
容レサルニ於テハ右修正條項ノ解釋問題トシテ本件ヲ海
牙ノ國際司法裁判所ニ訴ヘムトスル意気込ヲ示シ居レリ
付言、支那ノ白國ニ提示セル暫定取極案ハ原則トシテ
全然對等ノ上ニ關稅自主權、治外法權撤廢、租界回

収、入國自由ノ予諾ヲ約セシムルモノナリ日本ニ

一、日支通商關係規定分類

一、日支通商航海ニ關スル條約逐條研究

編註 右參考資料省略

(付記)

亜細亞局私見

(大正一五、九、七)

日支通商條約改訂問題ニ關スル件

一、支那ト列國トノ通商條約中本年ヲ以テ改訂要求期ニ達
シタルモノハ別表ノ示スカ如ク日、仏、白三國ト支那ト
ノ間ノ條約ニシテ其ノ他ノ各國トノ條約ノ改訂期ハ來年
即一九二七年ヨリ一九三四年ノ間ニ存シ英國トノ條約ハ
一九三〇年米國トノ分ハ一九三四年ナリトス而シテ仏國
ニ對シテハ本年二月同國トノ條約ノ改訂期來ルニ及ヒ支
那政府ハ之カ改訂ヲ申出テ仏國政府ニ於テ之ニ應スルノ
景色ナカリシカ其ノ後六ヶ月ヲ經過シ最近ニ至ルヤ支那
政府ハ仏清條約ノ修正條項ノ規定(期限六ヶ月以前ニ兩
締約國カ修正ヲ為サムトスル希望ヲ發表セサル場合ハ更
ニ十ヶ年有効トアリ)ノ反對解釋ニ依リ現行條約ノ無効
ニ歸シタル旨ヲ主張シ仏國側ニ於テハ之ニ對シ右支那側
ノ改訂要求ハ當時正式政府存セサリシヲ以テ問題ニスル

(欄外記入一)

對シテ改訂ニ應スルノ意ヲ表示セハ同様ノ *modus vivendi* ヲ提議シ來ルコト明白ナリト思考ス

(欄外記入二)

二、明治二十九年日清條約ノ修正條項ニ依レハ改訂要求權
ハ白國以外ノ諸國ト支那トノ條約ト同様日支双方ニ存シ
本年十月二十一日以後六ヶ月間ノ改訂要求期間ヲ認メ居
ル処支那政府昨今ノ遣口ニ徴スルニ右期限到來後改訂ノ
要求ヲ為シ來ルヘキコト想像スルニ難カラス而シテ支那
側ニ於テ愈々改訂ヲ要求シ來リタル場合(支那政權ニ重
大ナル變化ナキ限り当初ヨリ廢棄ヲ主張スルコトナカル
ヘシト思考セラル)我方ニ於テ如何ナル態度ニ出ツヘキ
カハ今後支那政局ノ推移、關稅會議ノ行懸殊ニ我對支政
策ノ大局ニ顧ミ慎重考量ヲ要スルコト言ヲ待タス

(1) 惟フニ現杜錫珪內閣カ其ノ地位ヲ維持シ居レルハ固ヨ
リ何等實力ヲ有スルカ為ニアラス只軍閥ノ私闘熾ム時
ナク從テ國內勢力關係ノ變化停止スル所ヲ知ラサル此
ノ際進シテ大政變理ノ任ニ膺ル者ナキト同時ニ諸外國
トノ關係上中央政府ヲ欠クヲ許ササル事情アルカ為ニ
シテ殊ニ現內閣閣員ノ大多數カ過般關稅會議再開ノ關
係上俄ニ就任シタルモノナルニ徴スルモ這般ノ消息ヲ

窺フニ足ルヘシ即チ支那現政府ノ地位ハ今後支那国内勢力關係ノ變化如何ニ從ヒ動搖スヘキモノニシテ今ヤ武漢ノ霸權北伐軍ノ手ニ帰シタル今日今後支那政局ノ變化ハ殆ト端倪スヘカラサルモノアルヘク從テ今後一ヶ月半即來ル十月二十一日日支通商条約改訂要求期開始直後ニ於ケル支那政局ヲ想像スルニ未タ到底永続ノ見込アル政府ノ實現ヲ期スヘキ時期ニ到達シ得サルヘキヲ以テ日支通商条約改訂ノ要求ニ接シタル場合之ニ對スル応酬ハ頗ル慎重ノ考量ヲ要スルモノトス

(d) 次ニ大ニ考慮スヘキハ關稅會議ノ行懸リナリトス即チ通商條約上ノ重要事項タル稅率ノ改訂問題ハ此ノ會議ニ依リ既ニ實行ノ步武ヲ進メツアルモノナリ而モ國別の通商條約改訂ノ外關稅會議ヲ必要トスル所以別ニ存ス蓋シ列國側ニ於テハ之ニ依リ投資整理案作成ノ好期會ヲ得ヘク又支那側ニ於テモ一齊ニ直ニ各國ニ對シ自主權回收ノ實現不可能ナルコトハ万々承知シ居ルヘキヲ以テ先ツ數年ノ準備期間ノ処置トシテ例ハ差等稅率ニ依リ各國ニ對シ同時一様ニ暫定ノ高率ヲ課シ得ルニ於テハ一九三四年迄漸次國別條約改正ノ交渉ニ依リ

以テ篤ト同政府ノ地位並永続性ヲ考究スルコト肝要ナルモ上海事件以來不對等條約改訂問題ニ對スル我方ノ態度殊ニ關稅會議ニ對スル我方ノ方針ヲ顧ミルニ支那ノ漸進的國權回復運動ニ對シテ滿腔ノ同情ヲ表シツツ日支ノ條約關係ヲ整理按配スルニ在ルヲ以テ此ノ見地ヨリスレハ如何ナル場合ニ於テモ徒ラニ支那政情ノ不安ニ藉口シテ支那側ノ要求ヲ斥クルノ不可ナルハ勿論亦徒ラニ條約ノ解釈ニ立籠リテ改訂ノ時期ヲ失セシメ(日清通商條約第二十六條ニ依レハ來ル十月二十一日ヨリ起算シ六ヶ月以内ニ日支兩國何レヨリカ改訂ヲ要求セス且改正ヲ行ハサルトキハ條約並稅目ハ更ニ十ヶ年有効トナリ居レリ故ニ六ヶ月以内ニ改訂成立セサレハ理論上更ニ十ヶ年延長トナル尚追加條約ニハ修正條項ナキヲ以テ修正ニ応セサルモ可ナリトノ論モ立チ得)或ハ争起リタル場合修正條項ノ解釈ヲ提ケテ遂ニ海牙國際司法裁判所ノ問題トスルカ如キハ之カ為當然時ノ支那政府ヲ承認スル結果ヲ招來スルノミナラス我國ノ東洋ニ於ケル威信ヲ保持スル所以ニアラサルハ論ヲ俟タス(白支兩國共相互條件ニテ國際司法裁判所ノ

テ國定稅率適用ノ結果ヲ獲得スルヨリハ差當リ多額ノ收入ヲ得其ノ財政確立ノ期ヲ速カナラシメ次テ自主權獲得、稅率協定、漸進的治外法權撤廢問題ノ解決ヲ期シツツ一般通商條約ノ改訂ヲ行ヒ得ルノ便アルヲ以テナリ而シテ關稅會議ハ去ル七月三日ノ共同聲明ニ依リ支那政府ノ代表成立スルト共ニ再開スヘク列國トシテハ正面ヨリ之カ再開ニ反對シ得サル行懸リトナリ居ルニ付日本トシテハ從來同會議ニ對スル方針ニモ顧ミ所有機會ヲ捕ヘテ之カ再開ニ努力シ秋冷ト共ニ少ナクトモ非公式會議ノ再開ヲ促スコト然ルヘシト思考セラレサルニアラサルモ之亦支那政情ノ變化從テ中央政府ノ地位如何ニ依リ甚深ノ注意ヲ要スルモノトス即チ最近廣東政府ニ於テハ益々關稅會議反對ノ態度ヲ露骨ニシ來レルハ同政府外交部長陳友仁ノ米國公使ニ對スル電報ニ依リ之ヲ明ニスルヲ得ヘク又最近廣東側トノ關係特ニ密接トナリタル國民軍ニ於テモ張吳合作ヲ基礎トセル政府トノ關稅會議繼續ニ反對ナルハ國民軍外交代表者包世傑ノ外交團宛申入レニ徵スルモ明ナリ

(e) 是ニ於テ支那政府ノ通商條約改訂申出ニ對シテハ先ツ

應訴義務ヲ認メ居レリ日本ハ大國ノ威信上應訴義務ヲ認メ居ラス)

(a) 從テ改訂ヲ申出テタル政府ノ地位危弱ニシテ相當繼續ノ見込立タサル場合ニ於テモ其ノ申出ニ對シテハ我方ニ於テハ常ニ通商條約改訂ノ準備アルコトヲ告クルト共ニ本件交渉ハ之ヲ關稅會議ノ討議ト平行シテ行フヘキ旨ヲ答フルコトトシ其ノ他ハ極メテ非公式ニ専門家辺リノ意見交換ニ止メ以テ我方公正ノ態度ヲ明ニスルト同時ニ將來ニ對スル我立場ヲ拘束スルコトナキヲ期スヘク

(b) 一度相當永続性ノ認ムヘキ政府出現セムカ率先シテ關稅會議ノ非公式再開ヲ提唱スヘク又通商條約改訂ノ要求ニ接シ居リタリトセハ之亦非公式交渉ニ依リ治外法權撤廢問題ニ付テハ法權委員會勸告案ノ大綱ニ基キ漸進的撤廢ノ方針ニ出ツヘク又稅率問題ニ付テモ漸進的自主權回復ノ見地ヨリ曩ニ公文交換ノ行懸ヲ追ヒ稅率協定ノ商議ヲ開始スルコト然ルヘシト雖モ一方前記ノ如ク關稅會議ニ依リ差等稅率、投資整理、財政確立等過渡的措置ヲ講スルコト列國ニ

トリテモ支那側ニ取リテモ必要ナルヲ以テ寧ロ関税會議ノ再開進行ニ重キヲ置クヘク通商条約改訂問題ハ之ト平行シテ徐々ニ進行セシムルノ態度ニ出ツルコト然ルヘシ

(c) 列国側ニ於テモ對支關係ノ大局上同會議ノ必要ヲ認ムルニ吝ナラサルヘキヲ以テ相当永続性ヲ認ムヘキ支那政府現ハレタル場合ニハ我方ノ慫慂ヲ待ツ迄モナク會議非公式再開ニ応スヘシト想像セラレサルニアラサルモ或ハ從來非公式會議ノ不成績ニ鑑ミ先ツ以テ承認シ得ヘキ政府ノ成立ヲ待チ正式會議ヲ開カムコトヲ主張スル向モ之ナキヲ保セス然レ共支那ノ実情ニ照スニ斯ノ如キハ之ヲ期待スルコト頗ル困難ナルヲ以テ予メ此ノ難問ヲ提起スルコトナク寧ロ関税會議非公式會議乃至通商条約改訂殊ニ税率協定非公式交渉ヲ行ヒ其ノ結果一定ノ成果ヲ得タル場合適宜新政府ノ地位能力等ヲ測定シテ之ト条約其ノ他ノ取極ヲ調印スルコトニ依リ新政府ヲ承認スルノ結果ヲ招来スル方實際的ナリトノ趣旨ヲ以テ各国ヲ誘導スルコト可然サリ乍ラ万一列国ニ於テ時ノ支那政府

ニ對スル感情問題等ノ為關税會議ノ再開ニ對スル我方ノ慫慂ニ容易ニ応スルノ色ナキトキハ止ムヲ得サルヲ以テ我方トシテハ一方所有方法ヲ以テ関税會議再開ヲ促進スルト共ニ他方通商条約改訂問題ニ對スル非公式交渉ヲ開始シ徐ロニ関税會議ノ再開ヲ待ツコトトスヘク支那政局ノ变化上関税會議ノ再開到底見込ナキニ至ル場合ハ更ニ改メテ対策ヲ講究スルコトトスヘシ

而シテ右対策ノ骨子ハ最惠国條款ヲ付シテ日本独リ不利益ヲ蒙ルコトヲ防キタル上暫定差等税率、国定税率ト互惠税率ノ併用、治外法權ノ漸進的撤廃、内地雜居国民待遇等所謂對等条約ノ形式ヲ整フルコトトシ列国ト独立シテ单独ニ日支条約改訂ヲ断行スルノ決心ヲ明ニスヘシ

三、尚以上考量ノ下ニ支那ノ白清通商条約破棄通告ニ關スル白耳義國ノ對支申入好意的援助要求ノ件ヲ考察スルニ本件ニ付テハ他ノ華府条約關係國ノ態度ヲ知ルノ要アリ独リ我方ノミ率先シテ態度ヲ決スヘキ筋合ニアラス又白国側ニ於テモ今直ニ各国ノ援助ヲ期待シ居ル次第ニモア

(欄外記入三)

日中通商条約改訂ノ前提ニ關スル新聞報道報告ノ件

告ノ件

第六五九号(極秘)

(十月十六日接受)

日支通商条約期限満了期ノ切迫ニ伴ヒ改廢ニ關スル記事論說最近弗々当地新聞紙上ヲ賑ハシ漸次一般ノ注目ヲ牽キツツアルカ此種論說ニ常ニ主動的地位ヲ取り来レル晨報ハ十四日「日約修改ノ三大重要前提」ト題シ支那条文ニ基キ大要左ノ通論セリ

(一)冒頭先ツ日本ハ条約改正ノ提議ヲ接受スルノ準備アルハ佐分利局長ノ態度ニテモ知り得ヘシ条約改正ノ範圍ニ付テハ広義ニ解スレハ条約ニ載スル処ハ總テ通商事項トシテ之ニ屬スルモノト解スヘキモ通商条約第二十六條ニハ税則及通商ニ關スル条項トアリ日本側モ之ヲ限度トナシ所謂領事裁判權及最惠国條款等ハ皆改訂ノ範圍内ニ非サルカ如シ吾人ハ曩ニ旧条約ヲ廢棄シ新条約ヲ締結スヘキ事ヲ主張セルハ斯クスレハ第二十六條ノ規定ハ問題トナラサルカ為ナリ若シ日本カ該条約ノ規定ヲ盾トシ我方全部改訂ノ要求ヲ接受セスンハ吾人ハ他ノ手段ヲ以テ之ニ応センノミトシ

ラサルヲ以テ此ノ機會ニ在支公使ヲシテ本件白国申出殊ニ通商条約改訂問題自身ニ對スル其ノ同僚所屬諸國ノ意向ヲ探ラシメ以テ我方ノ參考ニ資スルト共ニ白国ノ申出ニ關シテハ必要ニ応シ日支兩國間ノ特殊連絡關係ヲ利用シ在支公使ヲシテ関税會議再開問題並他ノ列国トノ通商条約改訂問題ノ關係モアル今日可成穩當ノ態度ニ出ツヘキ旨支那政府ニ非公式ニ勸告セシムルコトトシ此際公式勸告又ハ共同勸告ノ形式ヲ避クルコト可然北京外交團ニ於テ本件問題トナリタル場合ニハ此ノ趣旨ニ依リ在支公使ヲシテ程ヨク応酬セシメ一方白耳義側ニ對シテハ適當ノ時機ニ於テ簡單ニ在支公使ニ對シ必要ノ訓令發送済ナル旨ヲ在白大使ヲシテ答ヘシムルコト可然

(欄外記入一)

支那ト列国トノ通商条約改訂關係

(欄外記入二)

日支通商条約改訂問題ノ考察

(欄外記入三)

自国ノ對支申入レ好意的援助ノ件

四〇三 十月十五日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

(二)改訂提議ノ期間ニ付テハ第二十六條ニハ滿期後六ヶ月トアリ改訂期間タルヤ又ハ提議期間タルヤ明瞭ナラス日本側ハ之ヲ以テ改訂ノ提議ノ有効期間タルノミナラス改訂ノ最長期間トナシ六ヶ月後尚改訂ヲ完成シ得サレハ旧條約効力ヲ存続スト解ストスルカ如キモ吾人ハ條文ニ六ヶ月内ニ酌量考慮スヘシトアルハ改訂提議ノ有効期間トシ改訂自体ハ六ヶ月ヲ經過スルモ遅カラスト解ス

(三)本條文ニ六ヶ月内ニ酌量更改云々トアルハ右六ヶ月内ニ旧條約ノ依然有効ナルヲ云フモノナルモ右ハ新旧兩條約間ニ中断ナカラシムルカ為ニシテ万一新條約カ十ヶ月内ニ成立セサル場合ニハ別ニ共同宣言ヲ以テ有効期間ヲ延長シ得ルヤ否ヤ又當事國間意見ノ不一致ニ関シ談判破裂セハ即時廢棄セラルルヤ否ヤ明文ノ規定ナキモ吾人ハ兩國ノ談判成立セサルモ一方既ニ修改ノ意ヲ声明シ他方其ノ請求ヲ接受スレハ旧條約ハ新條約ノ不成立ニ関シ効力ヲ維持シ得ストナスヲ以テ外交慣例ニ適スルモノト思惟ス然ラسنハ一方ノ故意ノ阻止ニ関シ既得權利ハ永久ニ解除ニ由ナカラント論シ

四要スルニ本條約ノ改訂ハ提議前ニ於テ手續及内容ニ付綿

ル処目下日支通商条約滿期改訂問題モ切迫シツツアリ此ノ種傾向ハ特ニ留意ノ必要アルニ付右ノ狀況御聞込ノ点回報相成タシ
外務大臣、天津、上海、漢口へ転電セリ

四〇五 十月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂ニツキ顧外交總長トノ会谈

内容報告ノ件

第六六三号(極秘) (十月十七日接受)

往電第六六一号ニ関シ

十月十六日帰任ノ挨拶旁々外交總長ヲ訪問シタル処顧ハ何^{in a few days}ニ日支通商条約ノ terminate ノ問題ニ付テ note ヲ本使ニ送ルト同時ニ在本邦支那公使ヲ經テ日本政府ニモ出ス積リナリ元來現行通商条約ハ数十年前ニ締結セラレ其内ニ不平等ノ事項多キ為メ商務總會其他ノ国内ノ団体ヨリ右條約ハ terminate スル事然ル可シトノ representate 来リ居リ旁々 equal and reciprocal ノモノニ改ムル事ハ人民ノ声ニシテ政府ハ民意ニ從ヒ fundamental revision ヲ行ハン事ヲ希望ス自分ハ form ヲリモ contents

密ナル研究ヲ要ス日本ハ支那貿易上重要ノ地位ヲ占ム日本通商条約ニシテ修改ヲ得ハ英米各國トノ條約モ容易ニ解決シ得ヘク之レ現内閣存在ノ唯一ノ理由タルト共ニ唯一ノ職責タリ吾人ハ一致嚴重ニ監視、督勵ノ態度ヲ執ルヘキナリト結ヘリ

四〇四 十月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中日改約討論会ニツキ在濟南總領事ニ照会ノ

件

第六六二号(極秘) (十月十七日接受)

本官發在濟南總領事宛電報

第一四号

十六日当地新聞報ニ抛レハ最近貴地ニ於テ徐交渉員首唱ノ下ニ中日改約討論会ナルモノヲ組織シ改約ノ弁法及根拠ヲ研究中ナリシカ十四日徐ヨリ外交部ニ對シ該会ノ成立ヲ報告スルト共ニ旧約滿期廢止後新約締結前ハ山東省ニ於ケル對外交渉ハ如何ニ処理スヘキヤ電請シ来リタル趣ナルカ右討論会ナルモノハ上海方面ニ組織セラレタル討論会ト同一系統ノモノト認メラレ漸次他ニ波及スルニ至ルヤモ知レサ

ニ重キヲ置キ度キ意向ナリ云々ト語リタルニ付本使ハ貴方ノ云ハルハ條約ノ terminate ノ事ナリヤ revision ノ事ナリヤ又六ヶ月以内ニ改訂繼ラサル場合ハ如何ニスル考ヘナリヤト問ヒタルニ外交總長ハ單ニ是非共六ヶ月以内ニ改訂ヲ了シ度キ旨ヲ繰返セリ依テ本使ハ右支那側ノ希望ニ對シ種々質問シタルニ先方ハ種々説明セルモ要領ヲ得サリシニ付條約文ノ提示ヲ要求シ之ヲ取寄セタル上其第二十六條ニ明カニ revision トアルヲ指摘シタル処顧モ遂ニ此点ヲ首肯セリ依テ本使ハ日本政府及本使共ニ隣國ニ對シテハ出來ルタケ友情ヲ發揮スル所存ナルモ本案ハ種々専門的問題ヲ包含シ且關稅會議ト關係ヲ有スル点モアルニ付貴方ノ照会ヲ一覽ノ上篤ト研究シタル後ニ非サレハ意見ヲ表明シ難シト答ヘ置キタリ

將又本使ハ白耳義ニ對シテモ同様ノ措置ヲ執ラレタリトノ事ナル処現在交渉ノ狀況如何ト尋ネタル処顧ハ白耳義ハ條約期限ノ completion ト共ニ條約ハ cease スルモノニ非ストノ見解ヲ執リ居ルモ支那政府ハ見解ヲ異ニスルモノナリト説明セルカ仲裁裁判所ニ提出スルヤ否ヤトノ質問ニ對シ顧ハ白耳義ハ斯ノ如キ說ヲ提出セル事アルモ其後ハ此說ヲ

固執セス從テ条約改訂問題ハ目下交渉継続中ト見ル可キモノナリト述ヘタリ

四〇六 十月十七日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂ニツキ日本側ヘノ照会案起

草ニ関スル新聞報道報告ノ件

第六六一号(極秘)

十六日ノ当地漢字新聞ハ外交部方面ノ消息トシテ伝ヘラルル処ニ依レハ目下外交部ハ日支通商条約及其他ノ条約問題ニテ忙殺セラレ居ルカ顧外交總長ハ十五日芳沢公使帰任ト共ニ至急日本側ニ照会ヲ発スル為外交部係官ヲ督勵シ照会ノ起草ヲ急カシツツアリタル処最近漸ク其ノ起草ヲ終リタル趣ニテ右照会ハ冒頭日支通商条約ハ満期トナリタルヲ以テ条約ノ規定ニ照シ廃止スル旨ヲ通告シ日支兩國ハ別ニ平等互惠ノ新条約ヲ締結シ右新条約締結前通商航海ハ旧条約ニ依ルヘキ旨ヲ述ヘ最後ニ支那政府ハ日本政府カ必ス支那ノ此ノ提議ヲ諒解シ從來ノ情誼ニ鑑ミ更ニ兩國ノ友誼ヲ増進スヘキコトヲ確信スル旨ヲ説キテ結ヒタルモノナリトノコトナリ尚他ノ情報ニ依レハ外交部ハ十四日汪公使ニ對

約ノ締結成立セサル場合ハ支那政府ハ在来ノ条約ニ對スル態度ヲ決定シ之ヲ宣言セサルヲ得ス

從テ支那政府ハ此ノ点ニ関シ茲ニ其ノ当然有スヘキ權利ヲ保留スヘキ事ヲ声明ス

尚本文ハ東京ニ於テ汪公使ヨリ直接日本政府ニ申入ルルモ本使ヨリ政府ニ轉達アリタキ旨ヲ記入シアリ全文追電ス尚支那側各方面ヨリノ情報ニ依レハ右公文ハ支那政府ニ於テ苦心ノ結果ニナリ日本トノ友好關係ヲ充分顧慮シタルモノトノ事ナリ

四〇八 十月二十日

在本邦汪中国公使ヨリ
幣原外務大臣宛

通商条約改訂提議ノ件

陽字第七八号

(十月二十一日接受)

敬啓者中華民國十五年十月二十日接准本国外交部電開中日邦交向極親密中国政府為欲使親密之邦交益加鞏固起見以為光緒二十二年六月十一日所訂中日通商行船条約並付屬文件以及光緒二十二年九月十三日所訂付屬前約之公立文憑數件應即按照条約規定加以修改查該約二十六款明定此次所定稅則及約内各款日後如有一國欲再重修由換約之日起以十年

シ前記ノ如キ正式ニ照会ヲ行フ前ニ先ツ右ノ趣旨ヲ日本政府ニ通シ意見ノ交換ヲ行ヒ政府ノ希望ヲ通達シ結果回電スヘキ旨訓令シタル趣ナリ御參考迄

四〇七 十月二十日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交總長ヨリ公文ヲ以テ日中通商条約改訂ヲ

提議シ来リタル旨報告ノ件

第六六九号(至急、極秘)

(十月二十一日接受)

外交總長ヨリ本使宛十月二十日付公文ヲ以テ日支通商条約付屬書及協定文書並追加条約及付屬文書規定ヲ一括根本改訂ヲ提議シ来リタリ右公文ノ要旨左ノ通
日支通商条約ハ既ニ三十年ノ久シキ年月ヲ經過シ現代ニ適応セサルニ付支那ハ再ヒ之ヲ繼續セスシテ之ニ根本的改訂ヲ加ヘン事ヲ希望ス本改訂問題ハ日支兩國親善ノ前途ニ於テ關係極メテ重要ナルニ付最近ノ國際進歩ノ潮流ニ順応シ且中国人民ノ希望ヲ満足セシメ平等相互ノ原則ニ基キ以テ中日國交ノ基礎ヲ確立セン事ヲ希望ス尚条約期限ヨリ六ヶ月ヲ改訂期間ト定メアルヲ以テ速ニ交渉ヲ開始シ右期間ニ新条約ヲ完成セシメラレン事ヲ切望ス若シ右期間内ニ新条

為期限滿後須於六個月内知照酌量更改等語該約係於光緒二十二年九月十四日互換至本年十月二十日又屆期滿因此特向日本外務省提議將光緒二十二年六月十一日中日通商行船条約並關係文件以及公立文憑一律根本改訂至光緒二十九年八月十八日訂立之通商行船条約統約及其付屬文件章程既係統約性質根柢該約第九款自應與正約一並根本改訂查中日通商行船条約訂立已經三十年之久在此長時期間兩國經濟商務及人民間關係已不知幾經變遷以此年代久遠之約支配兩國屢經變遷之經濟商務及人民關係自多不適宜而滋生困難之処証之近年經歷尤覺顯然故中国政府對於前述各約實希望不再繼續而願即進行根本改訂事宜以圖增進兩國公共利益此次修改条約於貴我兩國親善之前途關係綦重中国政府深冀貴國政府能順應近年國際進步之潮流並滿足中国人民之願望根柢平等相互之原則以確立中日邦交與夫兩國人民親善之新基礎按照約文規定期滿後六個月為修約期間中国政府深冀從速開議於此六個月内完成新約俟修約期滿而新約尚未成立則事難久懸不得不決定對於旧約之態度而宣示之因此中国政府關於此点須聲明保留其應有之權利總之中国与日本同州隣國睦誼素敦彼此人民關係更較深切此次提議根本改訂前述各約又專為謀

増進兩國之親善故敢信貴國政府對於中國政府之提議必能完全贊同并望貴國政府與中國政府推誠商榷努力進行俾於最短期內完成極滿意之新約而立兩國誠心親善之基礎等因除由本國外交部照會

貴國駐北京公使外相函達

貴大臣敬請查照為荷再電文中如有脫訛應俟外交部原文寄到時鈔送校正合行聲明茲本公使乘此時機對於

貴大臣特表最厚敬意敬具

中華民國十五年十月二十日

中華民國特命全權公使 汪榮寶

日本外務大臣男爵 幣原 喜重郎閣下

(右訳文 未定稿)

以書翰啓上致候陳者中華民國十五年十月二十日日本国外交部ノ電報ニ拠レハ「中日兩國ノ国交ハ從來極メテ親密ナルカ中國政府ハ此ノ親密ナル国交ヲ益鞏固ナラシムル目的ヲ以テ光緒二十二年六月十一日締結ノ日支通商航海條約及付屬文書並光緒二十二年九月十三日締結ノ前記條約ニ付屬スル約定文書等ヲ條約ノ規定ニ照シテ改正ヲ加ヘ度キ処查スルニ該條約第二十六條ニ於テハ茲ニ定ムル稅則及條約内ニ

規定スル各條項ハ今後若シ一國ヨリ之カ改正ヲ希望スルトキハ批准交換ノ日ヨリ起算シ十年ヲ以テ期限ト為シ右期間満了後六月以内ニ於テ其ノ改正ノ商議ヲ通告スヘキ旨ヲ定メアリ該條約ハ光緒二十二年九月十四日批准交換セラレ本年十月二十日ニ至リ又満期ニ達セリ因テ特ニ茲ニ日本外務省ニ對シ前記光緒二十二年六月十一日付日支通商航海條約及關係文書並約定文書ヲ一律ニ根本的ニ改訂セムコトヲ提議ス又光緒二十九年八月十八日締結ノ追加通商航海條約及其ノ付屬文書章程ニ就テハ追加條約ノ性質上該條約第九條ノ規定ニ基キ自然本條約ト併セテ之カ根本的改正ヲ為スヘシ惟フニ日支通商航海條約ハ締結後已ニ三十年ノ久キニ及ヒ此ノ長期間ニ於テ兩國ノ經濟商業及國民間ノ關係ハ既ニ多大ノ變遷ヲ來タシ居リ此ノ如キ長年月ヲ重ネタル條約ヲ以テ屢々變遷セル兩國間ノ經濟商業及人民ノ關係ヲ支配スルハ自ラ不適當ナルモノ多クシテ困難ヲ生スル場合多ク之ヲ近年ノ實際ニ徵スルニ特ニ其ノ著シキモノアルヲ覺ユ故ニ中國政府ハ前記諸條約ヲ再ヒ繼續セサルコトヲ欲シ之カ根本的改訂ヲ為シ以テ兩國公共ノ利益増進ヲ図ラムコトヲ希望ス惟フニ今回ノ條約改正ハ貴我兩國親善ノ前途ニ對シ

關係スル所極メテ大ナルモノアルヲ以テ中國政府ニ於テハ貴國政府力能ク近年國際進步ノ潮流ニ順應シ且中國國民ノ希望ヲ満足セシメ平等相互ノ原則ニ基キ中日兩國ノ国交及兩國人民ノ親善ノ新基礎ヲ確立セラレムコトヲ切望ス條約ノ規定ニ拠レハ其ノ期間満了後六箇月ヲ以テ條約改正ノ期間ト為スヲ以テ中國政府ハ速ニ商議ヲ開キ右六箇月ノ期間内ニ於テ新條約ヲ完成セムコトヲ切望スルモ若シ右條約改正ノ期限満了シ新條約未タ成立セサルカ如キ場合ニハ本件ヲ久シク懸案タラシメ難キニ付キ旧條約ニ對スル態度ヲ決定シ之ヲ宣示セサルヲ得サルヲ以テ中國政府ハ此ノ點ニ

關シ其ノ当然有スヘキ權利ヲ留保セムコトヲ茲ニ聲明ス之ヲ要スルニ中國ト日本トハ同州ノ隣國ニシテ睦誼素ヨリ敦ク兩國人民ノ關係頗ル緊密ナルカ故ニ今回前記諸條約ノ根本的改訂ヲ提議スル所以ハ又一ニ兩國ノ親善ヲ増進セムカ為ナルヲ以テ貴國政府ニ於テモ中國政府ノ提議ニ對シ必ス能ク完全ニ贊同セラレムコトヲ信スルト共ニ貴國政府ハ中國政府ト誠意ヲ以テ商議シ改訂ノ進歩ニ努力シ最短期間内ニ極メテ満足スヘキ新條約ヲ完成シ以テ兩國誠心親善ノ基礎ヲ完成セラレムコトヲ希望ス」トノ趣申越候ニ付本国外

交部ヨリ本件ヲ北京駐劄貴國公使ニ照會スルト共ニ茲ニ貴大臣ニ對シ此段申進候尚右電文中若シ誤脱ノ點アラハ外交部ヨリ原文到着次第訂正方申進スヘク右併テ聲明致候茲ニ本使ハ此機ニ於テ貴大臣ニ向テ重テ深厚ナル敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國十五年十月二十日

中華民國特命全權公使 汪 榮寶

日本外務大臣男爵 幣原 喜重郎閣下

編註 十月二十日付テ顧維鈞外交總長ヨリ芳沢公使ニ宛テ

同文送付セラレタ

四〇九 十月二十二日(着)

在中國芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂ニ關スル外交部來信送付及

ビ發表ノ可否請訓ノ件

第六七三號(極秘)

往電第六六九號ニ關シ

照會全文訳文ト共ニ本日郵送セリ昨夜外交部宴會ノ節顧總長ニ對シ本使ヨリ本照會ハ發表スル考ヘナリヤト尋ネタル処差當リハ發表セサレトモ近キ將來ニ於テ發表シタキ希望

ヲ有シ居レルカ本使ノ意向如何ト反問シタルニ付日本政府ノ意向問合セノ上回答ヲナスヘキ旨答ヘ置キタルニ付近々発表ノ可否ニ関シ何分ノ貴見御回電アリタシ

四一〇 十月二十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ベルギー・中国通商条約改訂ニ関スルベルギ

一 公使ノ内話報告ノ件

第六七九号(極秘)

(十月二十三日接受)

十月二十二日白耳義公使ニ面会シタル処同公使ハ予テ支那政府トノ間ニ問題トナリ居レル *modus vivendi* ニ関シ本國政府ヨリ訓電ニ接シタルカ其要旨ハ白耳義政府ハ条約廢棄ノ權利ヲ留保スルト同時ニ第一最惠國約款(イ)貨物(ロ)航海(ハ) (失念セリ) 第二治外法權委員會ノ「レコメンデーション」ヲ採用シ第三新条約締結ニ至ル迄此 *modus vivendi* ニ依ルトノ諸項ヲ基礎トシテ *modus vivendi* ヲ締結セムトスルニ在リ同公使ハ右ニ基キ今明日中ニ此提議ヲ外交總長ニ提出スル旨ニテ猶條約ノ期限即チ本月二十七日迄ニ右 *modus vivendi* ヲ締結スヘキ次第ナルカ貴見如何ト尋ネタルニ付二十七日迄ニ締結スルコトハ随分困難ナラムト答ヘ

置キタルカ日支条約改訂ニ関スル照会ノ内容ニ就キ質問シタルニ付支那側ノ要求ハ根本的修正ナリト答ヘタル処同公使ハ内密ノ談トシテ本年五月當時ノ外交總長顏惠慶ト会谈シタル際自分ハ日支条約ノ規定ニ依レハ支那ハ通商ニ関スル條款ノミヲ改訂シ得ルモノナリト述ヘタルニ顔ハ吾人ハ一切ノ條款ヲ改訂セムトスルモノナリト答ヘタルコトアリト語レリ

猶本使ハ同公使ノ依頼ニ依リ支那側照会ノ写ヲ内密トシテ送付スル所存ナリ

四一一 十月二十三日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

日中通商条約改訂問題ニ関スル汪公使トノ会

談ニツキ通報ノ件

第三三五号(至急、極秘)

日支通商条約改訂ノ提議ニ関シ在本邦支那公使ヨリ二十日付公文接受二十一日同公使來訪右提議ノ趣旨ヲ敷衍説明シ尚本件ハ支那国民全体ノ多年ノ要望ナルコトヲ力説シタリ本大臣ハ之ニ答ヘ日本政府ハ合理的ナル支那ノ国民的要望ニ対シテハ常ニ好意ヲ以テ考量ヲ加フルヲ既定ノ方針トス

ルモノニシテ既ニ関稅會議法權會議等ニ於テモ此方針ハ明瞭ニ看取セラレタルコトト信ス今回ノ提議ニ対シテモ之ニ処スル根本主義ニ於テ何等渝ハル所ナキハ茲ニ明言スルニ躊躇セサルモ未タ提議ノ全文ヲ精読考究スルノ違ヲ得サルヲ以テ遽ニ具體的ニ諾否ノ確答ヲ為スコトヲ得サル旨ヲ述ヘ差当リ提議ノ趣旨ニ関シ確カメ置キタキ点アリトテ

(一) 本通告中「一律根本改訂」トアルハ日支通商条約第二十六條ニ規定スル改訂事項ノミヲ指シヤ或ハ右以外ノ事項ヲモ包含スルヤト尋ネタルニ汪公使ハ通商条約中ノ規定ハ大体「通使」ニ関スルモノ(即公使領事交換駐在ノ件)ト通商ニ関スルモノトニ大別シ得ル処今回ノ改訂ハ右通使以外總テノ事項ヲ含ムモノナリト答ヘタリ本大臣ハ汪公使ノ所謂通使以外ハ総テ通商事項ト云フハ当ラス例ヘハ日本人カ遊歴ノ為支那ニ來往スルノ權利ヲ規定スル條項ノ如キハ通使通商何レノ問題ニモ屬セサルモノナルカ之ヲモ改訂シ度シト云フ提議ナリヤ否ヤト尋ネタルニ汪公使ハ本條項ノ如キモ平等相互主義ノ規定ニ改ムルコトヲ要スヘシト答ヘタルヲ以テ果シテ然ラハ支那ノ改訂提議ハ通商条約第二十六條ニ規定セル事項ハ之ヲ條約上ノ權利トシテ改訂ヲ要求シ

其以外ノ事項ノ改訂提議ハ權利トシテノ要求ニ非ス偏ニ日本ノ好意ニ訴ヘ支那ノ希望ヲ開示セルニ止マルモノト解スル処果シテ然ルヤト尋ネタルニ汪公使ハ貴見ノ通ナリト答ヘタリ

(二) 次ニ此通告文中ニ「若シ条約改訂期間満了シテ新条約未タ成立セサルトキハ久シキニ亘リ懸案トシ置クヲ得サルヲ以テ旧約ニ對スル態度ヲ決定シ之ヲ宣示セサルヲ得ス依テ中国政府ハ此点ニ関シテ其当然有スル權利ヲ留保スルコトヲ聲明ス」トアル処其所謂權利トハ何ヲ云フヤ本大臣ハ之ヲ諒解セサルモ要スルニ斯ノ如キ留保ヲ為スノ趣意ハ何レニ在リヤト問ヒタルニ汪公使ハ近來支那ニハ不平等條約廢棄論アルモ支那當局トシテハ此際日支條約廢棄ノ決定ヲナスコトヲ避クルト共ニ国内ノ強硬論者ニ幾分ノ満足ヲ与ヘムカ為右ノ一句ヲ插入セルモノナルヘシト答ヘタリ本大臣ハ右ノ一句ハ全ク支那ノ对内政策上ノ見地ニ基クモノニ外ナラストスルモソレ丈日本ノ世論ヲ刺激シ恰モ日本トノ交渉上ニ於ケル一ノ veiled threat ヲ含ムモノトシテ一般ノ反感ヲ挑発スルニ至ルヘシ今ヤ日支兩國政府並兩國國民ニ誠意ヲ以テ此重大問題ヲ考量セムトスルニ當リ斯ノ如ク懷ニ

七首ヲ擁スルカ如キ留保の声明ヲ為サルハ兩國間ノ国交ニ一利ナクシテ百害アルヲ憂慮セサルヲ得スト述ヘタルニ汪公使ハ御意見ノ次第ハ直ニ之ヲ本國政府ニ電報スヘシ若シ本國政府ニ於テ右字句ノ削除ニ応セサル場合ニハ日本政府ハ如何ナル態度ニ出テラルヘキ意向ナリヤト問ヒタルニ付本大臣トシテ削除ヲ強要スルノ地位ニ非ス唯本通告文ハ結局發表ヲ要スヘキニ付其節右ノ一句カ日本ノ世論ニ対シ極メテ不利ナル反響ヲ及ホスヘキコトハ予メ覚悟セラルヲ要スヘシト答ヘタルニ汪公使ハ本件ニ付テハ自分ノ電報以外芳沢公使ヨリモ顧總長ニ対シ直接申入レラルル様訓令方ヲ希望セルニ付右希望通り貴官ニ訓電スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ就テハ貴官ニ於テモ顧總長ニ面談ノ上右字句カ本邦世論ニ及ホスヘキ影響ニ付篤ト同總長ノ注意ヲ喚起シ結果電報アリタシ追テ新聞社ヨリ本件公文ノ發表ヲ求ムル場合ニハ電文中脱誤アリ問合せ中ニ付正確ナル「テキスト」全文到着ノ上ニテ發表スヘキヤ否ヤヲ決スヘキ旨ヲ答フルコトニ打合せ置ケリ

編註 本電ハ發電日不明ナルモ十月二十三日ニ起草サレテオリ同日發電サレタモノト推定サレル

アリコレニ対シ我が國トシテハ公正ナル態度

ヲ表明スベキ旨申進ノ件

第六八三号 (極秘)

(十月二十六日接受)

往電第六六九号ニ関シ

支那側提案ハ要スルニ條約ノ根本的改訂ヲ要望スルニアリテ右提案中ニハ現行條約ノ期限延長ヲ希望セサル趣旨ヲ繰返シ居リ條約第二十六条ノ規定ヨリ見ル時ハ妥当ヲ欠カカ如キモ右ハ通商條約ハ永久ニ繼續セシムヘキモノニ非ストノ一般論ニ立脚シ支那ノ現状ニ於ケル對内策ニ出テタルモノナル事明カナリ兎ニ角本件往復遠カラズ公表セラルヘク我カ回答ハ多大ノ注意ヲ以テ待タレツツアル次第ナルヲ以テ右支那側提案ニ対シテハ大体日本ハ支那国民全般ノ有スル正当且妥当ナル要望ニ対シテハ固ヨリ満腔ノ同情ヲ表スルモノニシテ其ノ実現ニ対シ支援協力ヲ与フルニ吝ナラサル事ヲ明カニシ進ンテ條約規定ノ趣旨ニ基キ條約ノ改訂ヲ行フ為非公式交渉ヲ開ク事ニ異議無キ趣旨ニテ回答セラレ支那全般ニ対シテ我カ同情ヲ表示セラル事然ルヘシト思考ス尤支那ノ現状ニ於テハ到底充分ニ交渉ヲ進捗セシムル事能ハサルモ我國トシテハ飽ク迄我カ公正ナル態度ヲ闡明

四一二 十月二十三日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

日中通商条約改訂ニ関スル中国側提議ハ嚴秘
ニ付スル意向ナル旨通報ノ件

第三三六号

貴電第六七三号ニ関シ

日支通商条約改訂支那側提議發表差控方ニ関シ差向キノ措置トシテ本大臣汪公使打合せノ次第ハ往電第三三五号末段ノ通ナル処右提議ノ「テキスト」ハ未タ本邦新聞ニ現ハレス其留保の声明モ世上ニ漏泄セル形跡ナク新聞紙ハ支那ノ提議カ全ク日本ノ好意ニ訴フルノ外何等權利ノ主張ヲ含マストノ想像ノ下ニ日支間ノ親交ニ顧ミ一般ニ同情的態度ヲ持シ居レリ政府ニ於テモ右留保の声明ノ漏泄スルコトアラハ世論ノ一変スヘキコトヲ憂ヒ之ヲ嚴秘ニ付シ居ル次第ニ付此辺ノ事情モ篤ト顧總長ノ考量ニ容レラレタシ

編註 本電ハ写デ發電月日不明ナルモ十月二十三日ノ起草デアリ即日發電シタモノト推定サレル

四一三 十月二十五日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

中国側提案ハ條約ノ根本的改訂ヲ要望スルニ

シ各方面ノ勢力者ニ対シテモ連絡ヲ取り我カ態度ヲ諒解セシメツツ非公式ニ中央政府ト会谈スル事トシ徐ロニ時局ノ推移ヲ見送り之ニ順応スル事トスル方得策ト思考セラル

四一四 十月二十五日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

日中通商条約改訂問題ニ関スル北京・天津タ

イムス社説報告ノ件

公信第五三〇号

(十一月二日接受)

大正十五年十月二十五日

在天津

總領事 有田 八郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支通商条約改訂問題ニ関スルP・Tタイムス所
論ノ件

本月二十三日ノ当地ベキン、テンシン、タイムスハ別紙切抜日支條約ト題スル社説ニ於テ日支間條約ノ簡單ナル歴史の記述ヲ為シタル後「日本ノ支那ニ対スル特權ハ今日ニ於テハ単ニ千八百九十六年ノ條約ニ基クモノト云フヘカラス而シテ千九百一年ノ最終議定書ニ關連シ當時關係外國政府

ハ其ノ認メテ以テ通商航海上ノ不便トナシタルトコロヲ修正セントシタル結果日本ハ千九百三年十月八日支那トノ間ニ追加通商航海条約ヲ締結シタルモノニシテ此条約ニハ期限ヲ定メス又必スシモ修正ヲ經ヘキモノトナリ居ラス云々」ト述ヘ支那カ日本及基他ノ各国ニ対シ条約改正ヲ提議スル時機トシテ今日ノ如ク不適當ナルコトハ殆ント想像シエラレス又日本トシテハ青島還付ニ関スル条約ニ於テ如何ニ支那カ其約束ヲ履行シ得タルカヲ実見シタリ云々ト論シ居レリ

写送付先 在支公使

編註 別紙新聞切抜省略

四一五 十月二十六日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国側公文中留保文言ニツキ顧外交総長ト交渉ノ予定ナル旨及ビ公文中字句ノ相違ニツキ報告ノ件

第六八四号(極秘)

貴電第三三五号ニ関シ

國務總理ヲ兼テ居ル顧外交総長ハ目下非常ニ多忙ニテ漸ク

ルニ付至急日本側条件ニ対シ同意サレン事ヲ望ム旨述ヘタル処目下關係ノ筋ニ照会中ニ付其内回答ニ及フ旨答ヘタルニ付成ル可ク一兩日中ニ回答ヲ望ム旨重ネテ申入レタルニ最善ヲ尽ス可キ旨答ヘタリ

四一七 十月二十七日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中国側留保条項及ビ発表ノ時期ニツキ外交総長ト交渉ノ結果報告ノ件

第六八六号(極秘)

貴電第三三五号ニ関シ

二十六日外交総長ヲ訪問シ通告文中ノ留保条項ニ所謂權利トハ如何ナル權利ヲ意味スルヤト尋ネタル処総長ハ六ヶ月ノ期限内ニ新条約成立セサル場合旧条約ニ対シ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤヲ決定スヘキ支那政府当然ノ權利ヲ云フト答ヘタルニ付実ハ兩國間ニ誠意ヲ以テ交渉ヲ為サントスル際斯ノ如キ留保ヲ殊更声明セラルル事ハ交渉ノ前途ニ利益無ク斯ノ如キ声明ヲ發表スルニ於テハ徒ニ日本ノ輿論ヲ刺戟シ交渉上不利ノ結果ヲ招来スルモノト信スト述ヘタル処総長ハ實ハ不平等条約ノ撤廃ハ現下ノ輿論ニシテ閣僚中ニ

明二十六日午後会見ノ約束ヲ得タルニ付其節御訓示ノ趣旨ニ基キ同総長ノ注意ヲ喚起スル管ナル処一方外交部ニテハ本件照会ノ公表ヲ急キ居ル様子ニテ二十七日頃発表ノ事ト致シタリト支那ノ意向ヲ内々問合セ越シタルニ付本使明日総長ニ会見ノ節万事相談スヘシト回答シ置キタリ

当方接受ノ照会文ニハ貴電第三三五号ノ(一)冒頭括弧内ノ文言中「久シキニ亘リ懸案トシ置クヲ得サルヲ以テ」ノ文句ナク又態度ヲ決シノ次ニハ「宣示」トアルモ当方ノ分ニハ「宣言」トアリ多少相違ノ点アルヤニ認メラルルニ付御承知置キ相成度シ尙往電第六七三号原文及訳文ハ二十二日朝ノ通常便ニテ發送セルニ付貴地着ノ上ハ其旨急報相成度シ

四一六 十月二十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交総長ニ対シ至急日本側条件ニツキ同意方要望シタル旨報告ノ件

第六八五号(極秘)

(十月二十七日接受)

貴電第三三五号ニ関シ

二十六日外交総長ニ面会ノ際本月十四日送付セル当方覚書ハ既ニ講究セラレタリヤト尋ネタル処一読シタリト答ヘタ

頗ル強硬ナル説ヲ抱クモノアリ今回ノ通告文起草ニ際シテハ自分自ラ此ノ事ヲ主宰シ鮮カラサル苦心ヲ弘ヒ幸ニ閣議ヲ通過スル事ヲ得タルモ實ハ右ノ如キ書振ヲ軟弱ナリトナセル向モ有リシ程ナリト述ヘタルニ付本使ハ支那ノ対内關係上如何ナル關係有ルニセヨ日本トシテハ此ノ留保ハ恰モ「ヴェールドスレット」トモ見受ケラルヘク面白カラサル字句ナリト述ヘタルニ日本政府カ右ノ如ク解釈セラルルトセハ自分ノ甚タ遺憾トスル処ニシテ決シテ「ヴェールドスレット」ナト云フ趣意ニ基クニ非ス六ヶ月ノ期限内ニ新条約ノ成立ヲ見サル場合ニハ現行ノ条約ヲ如何ニスヘキヤニ付態度ヲ決スル必要アル旨ヲ明カニシタル迄ニテ日本政府ノ心配セラルルカ如キ趣意ハ決シテ支那政府ニ於テ企図シタル処ニ非サルニ付偏ニ日本政府ノ御諒察ヲ望ム旨弁疏シタリ

次ニ本使ヨリ貴方ニ於テ一兩日中ニ通告文発表ノ御希望ナル趣ノ処日本政府ニ於テハ右留保条項ノ問題等アリテ外務大臣ト汪公使トノ間ニ新聞社ニ対スル応答振ニ関シ打合アル次第ナルカ日本政府ニ於テモ發表方ニ付テハ主義上異存ナキモ前記留保条項等ノ關係上其時機ニ関シテハ今俄ニ同

意シ兼ヌル次第先東京ヨリ同意ノ電訓ニ接スル迄發表ヲ見合サレタシト申入タル処然ラハ夫レニテ差支無キモ実ハ東京ニ於テ通告文發表サレタル趣ニテ支那新聞之ヲ轉載シ政府ヲ攻撃シ居ルニ付可成速ニ正文ヲ發表シタキ希望ナルニ付右日本政府ニ轉達サレタシト述ヘタルニ付承諾シ置ケリ就テハ右御舎ノ上然ルヘク御取計ヲ請フ(尚本使ヨリ汪公使ヨリ外務大臣宛通告文ニ新条約未タ成立セサル時ハ久シキニ亘リ懸案ト為シ置クヲ得サルヲ以テ云々ノ字句アル処本使宛貴總長ノ照会ニハ右ノ字句見当ラスト述ヘタル処右ハ電信ノ誤カ何カニテ汪公使ニハ本使宛通告ト同一文ヲ電報シ尚写ヲ郵送シ置ケリト答ヘタリ)

四一八 十月二十七日(着)

在濟南米内山總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂討論会及ビ一般輿論ニツキ

報告ノ件

第一三七号(極秘)

本官發在支公使宛第一二八号

貴電第一四号ニ関シ

内密調査シタル処当地ニ於テハ九月商埠商会長兼東萊銀行

此際本件通告文ヲ右留保文句ト共ニ發表セムカ折角両国政府間ノ友好的精神ヲ以テ談議ヲ進メムトスルモ本邦輿論ノ重大ナル反對ヲ受クヘキコト明ナルカ故ニ我政府トシテモ之ニ備ヘムカ為メ止ムナク支那ノ主張ニ對シテハ理論ヲ以テ一応反駁ヲ加フルノ必要ヲ見ルコトアルヘク其結果往復文ヲ發表セハ折角ノ友好妥協ノ根本精神ハ之カ為メニ没却セラルヘシ何レニシテモ本留保文句ノ存在ハ本件交渉ヲ円滑ニスル所以ニ非スシテ却テ故サラニ難局ニ導ク所以ト認メラルルニ付貴官ハ再應顧總長ニ面会ノ上右我方意ノアル所ヲ篤ト御説明ノ上結果回電アリ度シ將又支那側權利留保ノ理由カ顧總長ノ云フカ如ク六ヶ月内ニ新条約不成立ノ場合現行条約ヲ如何ニスヘキヤニ付態度ヲ決スル必要アル旨ヲ明カニシタルモノナルニ於テハ今後交渉不成立ノ場合ニ至リテ始テ之ヲ宣明スル等ノ手段ニ出ツルモ遅カラサルヘク此際之ヲ通告文中ニ挿入シテ發表スルハ蓋ニ其必要ナキノミナラス徒ラニ我方ヲシテ支那側ノ誠意ヲ疑ハシムルニ過キサルヘシ右最後ノ理由ハ汪公使ニハ私語トシテ言及シタルカ右御舎ノ上必要ニ応シ全然貴官ノ私見トシテ適宜付言セラレ度シ

長于耀西ノ主唱(徐交渉員カ暗中之ヲ使噓シツツアリトノ噂アリ)ニテ中日改約討論会ヲ組織シタル由ナルモ何等具體的運動ヲ為サス各新聞又討論スルモノナク本問題ニ對スル当地輿論ハ極メテ冷靜ナリ

外務大臣、天津、上海、漢口ヘ転電セリ

四一九 十月二十七日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

留保条項削除ニツキ再度外交總長ト交渉アリ

タキ旨訓令ノ件

第三四七号(至急極秘)

貴電第六八六号支那提議留保文句削除ノ件ニ関シ顧總長ニ於テハ当方ノ主張ヲ以テ日本政府ノ解釈ナルカ如ク誤解シ我方ニ説明弁疏セハ足ルヤニ考ヘ居ル処当方ノ深憂ハ右文句カ我邦輿論ニ与フヘキ不利ナル影響ニ在リ目下我新聞紙等ニ於テハ支那ノ提議ヲ以テ偏ニ日本ノ好意ニ訴フルノ外ナキモノト誤信シ日支間ノ親交ニ顧ミ支那現政府ノ地位等ニ拘泥スルコトナク同国民的要求ノ發露トシテ本提議ニ好意的考慮ヲ加フヘキ旨ヲ論シ居リ謂ハハ我邦輿論ノ本件交渉ニ對スル態度ハ今ヤ極メテ機微ナル狀況ニアリ然ルニ

四二〇 十月二十八日

在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂ニ関スル新聞報道報告ノ件

第三四〇号(極秘)

日支通商条約改訂問題ニ関スル東京北京方面ノ消息ハ支那紙ニ依リ一々当地ニ報道セラレツツアルモ僅カニ二十二日ノ商報カ「吾人ハ日本カ關稅會議ニ於テ表示シタル互惠的精神ヲ以テ本問題ヲ考慮センコトヲ切望ス

日本カ列強ニ率先シ支那ト對等条約ヲ締結スルニ於テハ列強又之ニ追隨スルニ至ルヘク支那ノ國民的要望タル國際平等ノ實現容易ニ達成セラレステ日支ノ提携ハ確立セラルヘキナリ」ト論シタル外別ニ論評ヲ試ムルモノ無ク目下ノ処支那側一般ノ本問題ニ對スル態度極メテ平靜ナルヤニ見受ケラル

在支公使ヘ転電シ漢口、濟南、天津、奉天、廣東ヘ暗送セリ

四二一 十月二十八日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国側公文中留保条項が存在スル以上不愉快

ナル反駁ヲ加ヘザルヲ得ザル旨汪公使ニ回答
シタル件

第三五二号(至急、極秘)

二十八日汪公使重ネテ来訪二十一日往電第三三五号本大臣ト会谈ノ次第二基キ直ニ本国政府ニ対シ留保文句ノ存在ハ日本側ヨリ一種ノ脅威ト解釈セラルル虞アル旨ヲ述ヘ該文句削除ノ必要ヲ簡單ニ電報シ置キタル処越エテ二十四日顧總長ヨリ右文句カスル趣旨ニ非ルコトヲ縷々弁明スヘキ旨電報シ来レルニ付本大臣ト重ネテ会见スル迄モナク折返シ往電第三三五号(二)中段本大臣説明ノ趣旨ニ往電第三四七号末段本大臣ノ私見ヲモ付シテ詳細返電ニ及ヒタルカ昨二十七日同總長ヨリ重ネテ電報アリ本件ニ付テハ芳沢公使ニ対シ支那側ノ立場ヲ十分説明シ置キタル趣ヲ以テ之ト呼応シ本大臣ノ誤解ヲ釈クヘキ旨訓令ニ接シタル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ同公使ニ対シ往電第三四七号ト略々同様ノ趣旨ヲ述ヘ本大臣一個トシテハ如何ニ誠心誠意日支親善ノ見地ヨリ友好的解答ヲ發セムトスルモ本留保文句存スル以上勢ヒ之ニ対シテ不愉快ナル反駁ヲ加ヘサルヲ得ス從テ予テヨリ懷抱シ居ル日支親善ノ誠意ヲ披瀝シ得ル回答文トナラサ

ニ関スル件

当地海關其他外国人商社等勤務ノ支那人ニ依リ組織セラルル天津洋務員公会ハ中白及中日通商条約改訂ニ関シ十月二十六日付ヲ以テ大要(一)即日中比不平等条約ヲ廢除ス(二)中日条約ノ満期取消ニ注意スルコト(三)全国同胞ハ連合努力シ一切ノ不平等条約ヲ廢除シ改訂又ハ繼續ニ反對ス(四)今後訂立ノ國際条約ハ須ラク平等互尊ヲ原則ト為ス(五)全国爭ヲ止メ共同シテ外ニ対ス(六)平等ヲ以テ我ヲ待遇スル民族及不平等条約ヲ自動撤廢スル国家ヲ歡迎ス(七)野心家ニシテ廢約運動ヲ妨害シ又ハ廢約行為ヲ毀謗中傷スルヲ防止シ且ツ之ヲ駁斥ス云々ト主張スル通電ヲ發シタリ(別紙新聞切抜参照)
右報告ス

写送付先 在支公使

四二三 十月二十九日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

留保条項ニツキ再度外交總長ト交渉ノ結果報

告ノ件

第七〇〇号(極秘)

(十月三十日接受)

貴電第三四七号ニ関シ

ルヘキヲ遺憾トスト述ヘタルニ汪公使ハ個人トシテハ全然同感ノ意ヲ表シ尚本国政府ニ対シテハ昨二十七日顧總長電訓本日本大臣ニ会见ノ上執行シタル処之ニ対スル本大臣ノ意見ハ昨日委細芳沢公使ニ電報シタル趣ニ付同公使ヨリ聴取ラレタキ旨ヲ簡單ニ電報スヘシトテ引取りタリ

編註 本電報ヲニ發電月日ヲ鉛筆書キテ十月二十五日ト記載アルモ、本電ノ起草ハ十月二十八日デアリ、即日發電セルモノト推定サレル

四二二 十月二十八日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

天津ノ海關、外国人商社等勤務ノ中国人ガ組織セル洋務員公会ガ發セル不平等条約廢除ノ通電ニ関スル件

公信第五四〇号

(十一月六日接受)

大正十五年十月二十八日

在天津

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
總領事 有田 八郎(印)

天津洋務員公会ノ發シタル不平等商約廢除ノ通電

二十九日外交總長ニ面会シ貴電御訓示ノ前段ニ基キ篤ト申入レタル所前回ノ会见ニテ詳細申シ述ヘタル通り右ノ字句ハ別段ノ意味ヲ有スル次第ニ非ス支那一概ノ輿論カ旧約ヲ廢シ平等条約ノ締結ヲ主張シ居ルモ政府ハ急激ナル改正ノ困難ナルニ顧ミ期滿ノ時期ヲ待チ現在形式ニ依ラサル平等条約ニ改メント努力シ居ル訳ナリト述ヘタルニ付本使ハ通告全体トシテハ非妥協のニ非ルモ留保条項ノ存在カ我カ輿論ニ不利ノ影響ヲ与フヘキヲ恐レ居ル次第ニテ若シ果シテ然リトセハ条約改正商議ノ前途ニ多大ノ障害ヲ及ホス結果トナルヘシト述ヘタリ總長ハ右字句ハ日本側ニテ心配サルルカ如キ字句トハ考ヘラレサル場合ニ依リテハ右字句ノ意味ニ関シ貴公使ヨリ問合セノ公文ヲ出サルレハ自分ハ折返シ説明ノ公文ヲ送ルコトトシ本問題ヲ解決スルコトトシテモ宜シカルヘシト述ヘタルニ付本使ハ貴我双方間ニ交換サルヘキ右公文ハ今回ノ通告文ト共ニ發表サルルノ趣旨ナリヤト尋ネタル所其ノ通りナリト答ヘタリ

本使ハ我方ニ於テハ右ノ如キ交換公文ヲ以テ満足シ得ヘシトハ思ハレス繰返シテ述ヘタル通り日本政府ノ解釈トカ支那政府ノ解釈トカ云フ問題ニ非ス其ノ留保条項ノ存在其

ノモノカ日本ノ輿論ニ惡影響ヲ及ホスコトヲ懸念スル次第ニテ若シ右留保条項ヲ其ノ儘ニナシ置カルルニ於テハ当方ヨリモ反駁ヲ加ヘサルヘカラサル羽目ニ陥ルヘキニ付前回會見ノ際ノ總長ノ解釋ヲ書面ニ認メラレタル丈ニテハ輿論ニ不利ナル影響ヲ与フル虞無シト斷言シ難シ依テ支那政府ノ通告文中ヨリ留保条項ヲ削除スル事ハ出来ヌヤ但シ日本政府ハ削除ヲ要求スルノ地位ニアル次第ニ非ス該条項ヲ支那政府ノ發意ヲ以テ削除スル事トナラハ満足ナリト述ヘタル所總長ハ前述ノ如ク支那ノ輿論ニ顧ミ閣議ニ於テ決定セラル次第ニテ削除スル事ハ不可能ナリトテ本使ニ於テ此ノ際何等カ名案ナキヤト尋ネタルニ付本使一己ノ案ナリトテ貴電末段ノ方法ヲ提議シタル所總長ハ支那政府ハ留保条項ニ拘束サルル訳ニ非ス只其ノ時ニ當リ執リ得ヘキ手段ニ付一般的ノ自由ヲ留保スルノミト答ヘタルニ付本使ハ或ル特有ノ行動ヲ留保又ハ「コンミット」スル訳ニ非ストスルモ未知ノ方法ニ付合口ヲ懷中ニ藏スルト同様ナルニ付其ノ点カ日本ノ輿論ニ不利ヲ与フル事ヲ支持セントスルノ趣意ナリト述ヘタルニ總長ハ自分ハ左様思ハサレトモ幣原大臣ノ懸念モ有ル事ナルニ付前述ノ公文交換ノ方法ニ依リ当方ヨリ

於ケル交渉漸ク具体化スルニ至ラハ南支一帯ニ北京政府不承認ノ運動擡頭スルナルヘシト予想サレタリ
在支公使ヘ転電セリ

四二五 十月三十日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

中国側公文文中ノ字句ノ相違ニ関スル件

第三六二号(極秘)

貴電第六八四号末尾ニ関シ

機密第一二〇〇号貴信二十八日到着セリ当方宛ノ分ト相違ノ主ナル点ハ(一)改訂ヲ提議シタル「条約並付属文件云々」中「付属」ノ代ニ「關係」(二)「對於前述各約照現行之方式実希望不再繼續」中ノ「照現行之方式」ヲ脱ス(三)「屆時中国政府」ノ代ニ「事難久懸」(四)「完成双方滿意之新約」中「双方」ノ代ニ「極」トアリ尚往電第三三五号(一)「」内「宣示」ハ原文其ノ儘ヲ訳文トシタルモノナリ

四二六 十一月五日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

留保条項ニ関スル公文交換ニツキ政府ノ意向

問合せノ件

意圖ナキ次第ヲ回答シ通告本文ト共ニ右公文ヲ公表スル方宜敷カルヘシト存スト述ヘタリ
右ノ如ク討論ヲ尽シタルモ遂ニ先方ニ於テ納得セサル為己ムヲ得ス引取りタルニ付篤ト御考慮ヲ請フ
更ニ何等ノ御訓令ヲ仰ク

四二四 十月三十日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民党元老派幹部張繼等ガ北京政府ノ手ニヨ
リ成立セル条約ヲ承認セザル旨言明シタル件

第三四一号(極秘)
往電第三四〇号ニ関シ

本官二十八日夜国民党元老派ノ幹部張繼、許崇智等数名ト會食シタル際談偶々日支通商条約改訂問題ニ及ヒタル処張繼ハ「如何ナル条約取極メニテモ今ノ北京政府即チ顧維鈞ノ手ニ依リ成立セルモノニ對シテハ絶對ニ承認セサルヘシ然モ此反對ハ独リ吾々同志ノミナラス他ノ各派モ同然ナリ」ト斷言シ其旨支那語ニテ同席ノ居正、伍朝樞等ニ語リタルニ皆一斉ニ之ニ同意シタルカ本官ハ宴席ノ事トテ条約ノ内容ニ触レタル質問ヲ差控ヘタルモ此光景ニ依リ北京ニ

第七一八号(極秘)

十一月四日外交部秘書總長ノ命ニ依リ本使ヲ來訪シ二十九日本使トノ會見(往電第七〇〇号参照)ノ節留保条項ニ関シ總長ヨリ「サゼスト」セシ提案(公文交換)ニ付日本政府ノ回答アリタルヤ実ハ支那側ニテハ來週初メ該照會文ヲ發表シタキ希望ヲ有シ居ル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ日本側ニテハ右留保条件アルカ為メ貴我ノ交渉ニ惡影響ヲ及ホスヘキヲ惧レ居ル訳ニテ何ノ途該条項ノ存在ハ面白カラスト答ヘタル処兎ニ角總長ノ提案ニ對スル日本政府ノ意向問合ヲ請フ旨述ヘタルニ付承諾シ置キタリ就テハ成ルヘク速ニ御意向御電示ヲ請フ

四二七 十一月五日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

留保条項ニ関スル公文交換ハ見合セタク中国

側提議ノ發表ハ我方回答ノ到着ト同時ニ行ウ

ベキ旨訓令ノ件

第三八〇号(極秘)

貴電第七一八号ニ関シ

留保文句ニ付彼我ノ間ニ公文ノ交換ヲ行フカ如キハ却テ誤

解ヲ深カラシムル虞アルニ付当方トシテハ支那側ニ於テ同文句削除方再考ノ余地ナキ場合ニ於テモ右公文ノ交換ハ之ヲ見合セ度キ意向ナリ尤モ日本政府ノ関スル限リハ日支ノ親交ニ顧ミ該文句ノ為本邦世論ニ及ホスヘキ不利ノ影響ヲ成ルヘク緩和スル様注意スル積ナリ尚我方回答ハ遅クトモ来週中ニハ發電ノ運ニ至ルヘキニ付支那側提議ノ發表ハ我方回答到達ノ上同時ニ之ヲ行フコト致度右ハ此種公文發表ノ慣例ニモ添ヒ望マシキ次第ナリ就テハ以上ノ趣旨ニ依リ外交総長ト御交渉ノ結果回電アリ度シ

四二八 十一月六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

留保文言及ビ發表ノ時期ニツキ外交総長トノ
交渉結果報告ノ件

第七二二号(極秘) (十一月七日接受)

貴電第三八〇号ニ関シ

十一月六日外交総長ヲ訪問シ御来示ノ趣旨ニ基キ詳細説明シタル処総長ハ実ハ或ル数省ノ官憲及人民ノ申出アル為公文發表ヲ急キ居ル次第ナルカ日本政府ニ於テ来週中回答セラルルナラハ僅々数日ノ問題ト思ハルルニ付兎ニ角日本政府

条ハ發表文ニ付テハ英文ニ基ク翻訳ト断リタル上右条文ノ邦訳文ヲ掲ク)並同英訳ヲ十月二十日付貴官宛外交部書翰ノ邦訳ト共ニ發表スル意向ナリ尤モ發表ノ日取ハ日支同時ト致度当方準備ノ都合モアルニ付右ニ関スル外交総長ノ意向御問合ノ上回電アリ度シ

(別電一)

十一月九日幣原外務大臣宛在中國芳沢公使宛電報第三八八号
日中通商条約改訂ニ関スル中国側提議ニ対スル回答覚書

第三八八号

覚書

一、帝國政府ハ明治二十九年七月二十一日調印ノ日支通商航海条約及付属文書並明治三十六年十月八日調印ノ追加通商航海条約及付属文書ノ改訂ヲ提議セル十月二十日付外交部公文ニ接シ慎重考究ヲ加ヘタリ

二、外交部公文ハ先ツ今次ノ提議カ専ラ日支親交ノ増進ヲ図ルノ目的ニ出テタルコトヲ明ニセリ帝國政府ハ篤ト之ヲ了承シ其ノ目的ニ対シテハ全然深厚ナル同感ヲ表スルモノニシテ夙ニ支那ノ正当ナル国民の宿望ノ貫徹ニ資セムカ為一切適宜ノ援助ヲ与フルノ方針ヲ確定シ之ヲ宣示

府ノ回答ヲ俟ツコトトスヘシ猶其外文句ノ為日本ノ輿論ニ誤解ヲ与フル虞アル場合ニハ之ヲ防遏スル様日本政府ニ於テ尽力セラルル趣ナルカ右ハ至極幸ニ存セラルル処是非右通り取計ハルル様願ヒタシト付言シタリ

四二九 十一月九日 幣原外務大臣ヨリ
在中國芳沢公使宛(電報)

日中通商条約改訂ニ関スル中国側提議ニ対ス
ル回答覚書通報ノ件

別電一 同日幣原外務大臣宛在中國芳沢公使宛電報第

三八八号

日中通商条約改訂ニ関スル中国側提議ニ対ス
ル回答覚書

二 同日幣原外務大臣宛在中國芳沢公使宛電報第
三八九号
同覚書英訳文

第三八七号

日支通商条約改訂ニ関スル支那側提議ニ対スル帝國政府ノ回答覚書別電第三八八号並ニ外交部ノ参考迄ニ右覚書ノ英訳トシテ別電第三八九号共ニ外交部ニ提出セラレタシ
提出ノ日付電報アリ度ク尚当方ニ於テハ右覚書(第二十六

セルコト一再ニ止マラス惟フニ両国ハ其ノ重要ナル利害關係ニ於テ相一致スル所極メテ多シ支那ニシテ内ニ和平善政ノ恵沢ヲ享ケ外ニ列国ノ間ニ伍シテ適正ナル地位ヲ占ムルニ至ラムカ日本国民ノ欣快之ニ過キサルヘシ

三、次ニ外交部公文中其ノ提議ノ根拠トシテ明治二十九年ノ日支通商航海条約第二十六条ヲ援用セリ同条約ノ解釈ハ英文ノ正条ヲ以テ規準トスルノ規定アリ右第二十六条ノ英文正条左ノ如シ

ARTICLE XXVI.

It is agreed that either of the High Contracting Parties may demand a revision of the Tariffs and of the Commercial Articles of this Treaty at the end of ten years from the date of the exchange of the ratifications; but if no such demand be made on either side and no such revision be effected within six months after the end of the first ten years, then the Treaty and Tariffs, in their present form, shall remain in force for ten years more, reckoned from the end of the preceding ten years, and so it shall be at

the end of each successive period of ten years.

四、帝國政府ハ本条ノ規定ニ基ク外交部ノ請求ヲ欣諾シ税率並明治二十九年条約ノ通商條款ヲ改訂セムカ為支那國政府ト商議ヲ開始スルニ異議ヲ有セス

五、他面前記外交部公文ヲ査スルニ單ニ税率並明治二十九年条約ノ通商條款ノミナラス前掲各条約及付屬文書ノ全部ニ亘リテ根本的改訂ヲ提議スルノ趣旨ナルコトヲ推測セシムル數節アリ斯ノ如キ広汎ナル改訂ノ請求ハ日支間ノ現行条約規定中何等之ヲ予想又ハ容認セルモノアルヲ見ス

六、然レトモ日本國政府ニ於テハ追テ開始セラルヘキ商議ノ範圍ヲ明治二十九年条約第二十六條ノ定ムル事項ニ限ラムトスルノ意思ヲ有セス該事項ノ以外ニ渉ル条約改訂問題ニ付テモ帝國政府ハ法理論トシテハ自己ノ主張ヲ保持スルト共ニ特ニ同情ヲ以テ支那國政府ノ希望ヲ考量スルヲ辭セサルヘク支那ニ於テモ亦等ク交譲ノ意ヲ以テ之ニ酬フヘキコトヲ確信ス

七、尚外交部公文中國政府ノ注意ヲ惹キタル一節アリ即チ六箇月以内ニ新条約ノ成立ヲ見サルトキハ支那國政府

thereto, as well as the Supplementary Treaty of October 8, 1903, and the annexed Notes.

2. The Japanese Government gladly take note of the assurance contained in the Waichiaopu's communication that the present proposal has been actuated solely by the desire to promote relations of friendship between Japan and China. Fully and sincerely they share that desire. They have, on more than one occasion, made clear their settled intention of extending every reasonable assistance to China towards the attainment of her legitimate national aspirations. The two nations have so much of their essential interests in common. Nothing would be more gratifying to the Japanese people than to see China enjoying the blessings of peace and good government within her borders, and taking her rightful place in the family of nations.

3. In support of the proposal now advanced, reference is made in the Waichiaopu's note to Article 26 of the Treaty of Commerce and Navigation of 1896, which,

ハ在来ノ条約ニ対スル其ノ態度ヲ決定シ之ヲ宣示セサルヲ得サルヘク此ノ点ニ関シ支那國政府ハ特ニ其ノ当然享有シ得ヘキ權利ヲ留保スル旨ノ声明是ナリ帝國政府ハ斯ノ如キ留保ノ字句ニ対シ失望ノ念ヲ禁スル能ハス今ヤ本件商議ノ成功ヲ期セムカ為ニハ偏ニ相互ノ信頼ト好情トニ俟ツノ外ナキニ當リ右一節ノ暗示スル意義ハ此ノ精神ト調和セサル所アルヲ認ム何レニスルモ帝國政府ハ玆ニ日支条約改訂ノ提議ニ応スルニ於テ素ヨリ外交部公文中ニ留保セラレタルカ如キ何等支那ノ權利ナルモノヲ容認スル旨意ヲ含マサルコトヲ率直ニ言明セムトス

(別電)

十一月九日幣原外務大臣發在中國芳沢公使宛電報第三八九号
同覽書英訳文

Memorandum

The Japanese Government have submitted to their careful examination the communication of the Waichiaopu under date of October 20, proposing revision of the Treaty of Commerce and Navigation of July 21, 1896, between Japan and China, and the Notes annexed

in its English text, agreed upon as the ruling text, reads:

(Quote full English text.)

4. The Japanese Government are happy to accede to the request of the Waichiaopu made in pursuance of the provisions of this Article, and are ready to enter into negotiations with the Chinese Government for a revision of the Tariffs and of the Commercial Articles of the Treaty of 1896.

5. On the other hand, the same note of the Waichiaopu contain passages giving rise to the presumption that what is now proposed is a fundamental revision, not only "of the Tariffs and of the Commercial Articles" of the Treaty of 1896, but also of the entire Treaties and Notes in question. It seems that a request for such comprehensive revision is neither contemplated nor sanctioned in any of the existing stipulations between Japan and China.

6. The Japanese Government, however, have no in-

tention of limiting the scope of the forthcoming negotiations to the questions defined in Article 26 of the Treaty of 1896. Without prejudice to their legal position in the matter, they are willing to consider sympathetically the wishes of the Chinese Government for a more extensive revision of treaty provisions, and they are confident that the same sense of moderation will mark China's action.

7. There is one more passage in the Waichiaopu's note at which the attention of the Japanese Government has been arrested. It declares in effect that if the conclusion of a new Treaty be not effected within six months, the Chinese Government will be compelled to define and to announce their attitude on the Treaties hitherto in force, and that they expressly reserve to themselves all rights to which they are duly entitled in this regard. The Japanese Government are unable to conceal from themselves a sense of disappointment at such terms of reservation. The implication involved in this paragraph

does not seem to be entirely in line with the spirit of mutual confidence and helpfulness which alone can ensure the success of the proposed negotiations. At all events, the Japanese Government feel it due to frankness to state that their acceptance of the proposal for a revision of treaties between Japan and China is not to be construed as an acquiescence in any asserted right of China in respect of which reservation is made in the Waichiaopu's communication.

四三〇 十一月十日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本政府ノ回答覚書ヲ外交総長ニ手交シタル
旨及ビ発表日時ニツキ報告ノ件

第七二七号(至急) (十一月十一日接受)

貴電第三八七号ニ関シ

帝國政府ノ回答覚書及其英訳文トモ十一月十日外交総長ニ
会見ノ上手交シタル処総長ハ一覽ノ後尚篤ト研究スヘキモ
一読シタル処ニ依レハ貴國政府ノ回答ハ友好的精神ニ基ク
モノト見受ケラレ満足シタル旨述ヘタリ発表日時ニ就テハ

協議ノ結果明十一日(木曜日)午後三時ヨリ四時迄ノ間ニ
発表スルコトトナリタリ就テハ貴地ニ於テモ同時刻発表ノ
コトニ御取計相成リタシ
猶貴電第三八九号末尾 acquiescence in any / 次ニ as-
serted トアリシモ邦文ニハ權利トアリタルニ付 rights ノ
一字ヲ加ヘ置キタリ

四三一 十一月十一日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交総長ヨリ近ク通商条約改訂交渉ノ手続ヲ

定メタキ旨意向表明ノ件

第七三二号 (十一月十二日接受)

往電第七二七号ニ関シ

昨日外交総長ト会見ヲ終リ握手セル際総長ハ何レ近々交渉
ノ手続ヲ定メ申送ル考ナル旨述ヘタルニ付本使ハ諒承ノ旨
答ヘ置キタリ為念

四三二 十一月十一日 幣原外務大臣ヨリ
在本邦汪中国公使宛

日中通商条約改訂提議ニ対シ回答ノ件

(写)

以書翰致啓上候陳者中華民國十五年十月二十日付貴翰ヲ以
テ明治二十九年七月二十一日調印ノ日支通商航海条約及付
属文書並明治三十六年十月八日調印ノ追加通商航海条約及
付属文書ノ改訂問題ニ関シ外交部ノ訓電ニ基キ御申越ノ趣
敬承致候右ニ対スル帝國政府ノ回答トシテ別紙甲号ノ通覚
書並別紙乙号英訳文々々本月十日在北京芳沢公使ヨリ貴國
外交総長ニ提出済ニ有之候ニ付右ニ御諒承相成度此段回答
申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
(別紙略)

(欄外記入)「十一月十一日汪公使ニ手交済」

四三三 十一月十二日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂提議及ビ我方回答ニ関スル

新聞論調報告ノ件

第七三四号 (十一月十三日接受)

日支通商条約改訂ニ関スル我方回答ハ外交部照会ト共二十
一日発表十二日ノ各新聞ニ掲載セラレタル処晨報カ(日本
殊ニ誠意ヲ欠ク)ト題スル社説ニ於テ日本カ特ニ英文二十
六条ヲ援用シタルハ口ニ同情ヲ以テ応諾ノ意ヲ表スルモ実

ハ拒絕ニ等シト断シ又 Peoples Tribune カ(日本条約ヲ
廢棄セヨ)トノ標題ノ下ニ直接我方回答ヲ論評スル事無ク
顧維鈞政府ノ如キ貧弱ナル政府カ白支条約廢棄ヲ宣言シタ
ルハ裏面ニ強國ノ黑幕有リ日本ハ名ヲ捨テテ実ヲ取り顧政
府ヲ Back シ其ノ人氣ニ乗シ所謂互惠税率ヲ協定セントス
ルモノニシテ広東國民政府ノ主張ト兩立セサルモノナレハ
國民ハ須ク即時日本条約ヲ廢棄スヘシト論シタル外未タ之
カ論評ヲ試ムルモノ無キモ我方回答ノ掲載振ハ不滿ノ意ヲ
見出シトスルモノ(脱)

四三四 十一月十七日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本側回答覺書ヲ繞リ米國公使トノ会谈内容

報告ノ件

第七四二号(極秘)

最近広東ヲ經テ比律賓方面ノ旅行ヲ終リテ帰任セル米國公
使ト本月十日及十二日兩度会见シ意見ヲ交換セルカ右会谈
ノ際「マクマレー」ハ通商条約改訂ニ関スル日本ノ回答ニ
関シ未タ承認ヲ經サル北京政府ニ対シ改訂方承諾ノ回答ヲ
与ヘラレタルハ一驚ヲ喫シタリト述ヘ且吾人ハ七月三日ノ

声明通り関稅會議ハ承認ニ値スル政府ノ出現スル迄ハ再開
セサル方針ナルニ拘ラス日本カ此際通商条約改訂ノ商議ニ
応セムトスルハ從來ノ態度ヲ變更シタル次第ナリヤト尋ネ
タルニ付本使ハ日本政府ハ何等態度ヲ變更シタル次第ニア
ラス又現ニ各國ハ北京政府ヲ相手トシテ重要ナル問題ヲ交
渉シツアリ例ヘハ万縣事件ノ如キ又白支条約問題ノ如キ
是ナリ自分ノ考ニテハ現政府ト通商条約改訂ノ商議ヲ為ス
ニ当リ非公式ノ方法ニ依リ之ヲ行フコトハ何等差支ナカル
ヘシト答ヘ置キタルカ米國公使ハ猶外交部ニ於テハ関稅會
議統開ノ案内状ヲ作成中ナル旨聞及ヒタルモ自分ハ案内状
接到ノ場合之ヲ拒絕スル意向ニシテ若シ北京政府ト會議ヲ
再開スルニ至ラハ恐ラク支那全國ヲ「アンタゴナイズ」ス
ヘシトテ広東政府並國民黨ノ勢力ニ非常ニ重キヲ置ク口吻
ヲ洩ラシタリ

雖少クトモ来春迄ハ北方ニ手ヲ延ハスヲ得サルヘク其後ト
雖恐ラク南方側内部ノ紛争ハ絶ユルコトナカルヘク結局全
國ノ統一ハ永続ノ見込付カサル次第ニアラスヤトノ趣旨ヲ
述ヘ置キタリ

委細郵報濟

在支各總領事ヘ転電セリ

四三五 十一月十九日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

我方回答ハ中国現政府ヲ以テ列國ノ承認セル

政府ト看做スモノニ非ザル旨通報ノ件

第四〇五号(極秘)

貴電第七二四号ニ関シ

我方ノ対支回答ニ付テハ支那側ニ於テモ「マクマレー」ト
同様ノ誤解ヲ抱クモノアルヘシト想像セラルル処右回答ニ
於テハ支那現政府ヲ以テ直ニ正式商議ノ相手方即列國ノ承
認セル政府ト看做スモノト解セラルヘキ論拠ヲ与ヘサル様
注意ヲ加ヘタルコトハ既ニ御氣付ノ通ナリ即チ我回答ハ特
ニ覺書ノ形式ヲトリタルノミナラス同覺書中第四項及第六
項ニモ故サラニ「外交部」ト「支那國政府」トヲ區別シ正

式商議ノ場合ハ勿論同情的ニ根本的改訂問題ヲ考慮スル場
合ニモ總テ「支那國政府」ヲ相手方トスルモノナルコトヲ
明記シ直ニ外交部又ハ現内閣ヲ相手方トスルノ字句ヲ避ケ
タル次第ナリ

四三六 十一月十九日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

日本及ビベルギーニ対スル条約改訂等ニ関シ

王寵惠ノ内話報告ノ件

機密第一三〇九号

(十一月二十六日接受)

大正十五年十一月十九日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支、白支条約改正等ニ関スル王寵惠ノ内話報告

ノ件

十一月十三日王寵惠ノ西田書記官ニ対スル内話左ノ通り
 (一)日支条約改正ニ関スル日本政府ノ回答ハ閣議ニ提出アリ
 タル後目下条約研究会ニ於テ慎重研究中ニシテ其内右回
 答ニ対シ更ニ何分ノ儀申出ツルト共ニ条約改正委員ヲモ
 任命スル管ナルカ未タ右人員等ハ確定セス目下ノ処ニテ
 ハ全権委員ヲ二名トシ一名ハ外交総長ノ兼務トシ他ノ一
 名ノ人選未定ナリ外間新聞社説又ハ団体等ニテ漸次支那
 側ノ本件交渉問題ニ関スル意見ヲ發表シ中ニハ日本ニ誠
 意ナシ云々ト憤慨セルモノモ見受ケラルルモ新聞記者又
 ハ団体等ハ未タ十分ニ本条約ノ詳細ヲ承知セルモノ少ナ
 ク且感情ニヨリ種々強硬論ヲ唱フルモノアランモ實際問
 題ハ必スシモ理想論ノ通りニ実行シ得ルモノニアラス日
 本ニシテ正常且友好的態度ヲ以テ支那國民ノ希望ヲ諒察
 セラレ円満ナル解決ニ努力セラルルニ於テハ新聞紙等ニ
 於ケル一時ノ感情論ノ如キハ漸次ニ冷却スヘキニ付差シ
 テ懸念セラルル要ナキモ日本側ニ於テ可成支那側新聞記
 者等ニモ接触セラレ日本側ノ友好的態度ヲ説示セラルル
 様致度シ

自分ヲ「海牙公断員」ニ任命セルカ右ハ海牙平和會議ニ
 ヨリ組織セラレタル「コート、オブ、アービュトレーシ
 ョン」ノ判事ニシテ右法廷ノ判事ハ各國政府ヨリ任命ス
 ル規定ナルヲ以テ今回ノ任命ヲ見タルカ目下ノ処白支条
 約改正問題トハ何等直接ノ關係ナク且差当リ特別ノ事件
 ナキ為メ赴任ノ要ナキ次第ナリ
 尚支那カ白支条約無効宣布後ニ於ケル在支白國人ノ待遇
 方法ニ関シテハ外交、内務、司法、財政、農商各部及稅
 務処等ノ各機關ニ於テ協議中ニテ法令ニ関スル分ハ自分
 モ司法部ニ於ケル會議ニ参加シ居レルカ来週中ニハ各部
 ヨリノ草案ヲ國務會議ニ提出シ得ヘキニ付決定ノ上ハ直
 ニ公布スル管ナリ

(三)今回設置シタル条約研究会ハ外交總長ヲ會長トシ副會長
 ハ顏惠慶及自分ノ二名ナルモ顏ハ其内英國ニ赴任ノ意ア
 リトテ副會長ヲ断リ未タ就任セス願總理ヨリ暫時タリト
 モトテ頻リニ就任ヲ勸メ居ルモ顏未タ承諾セス孫宝琦、
 羅文幹等ハ右會員ナリ云々

右報告ス

(一)白支条約改正問題ニ就テハ支那側ヨリ一八六五年ノ白支
 条約ヲ無効ナリト宣言シタル以来文書ヲ以テノ交渉ナキ
 モ白支兩國間ニハ交渉断絶シタル次第ニアラス白国側カ
 該条約ノ解釋問題ヲ國際裁判所ニ提出セントスル裁判所
 ハ Permanent Court of International Justice ナルカ白
 国カ果シテ右裁判所ニ提出スルヤ否ヤ未タ確報ニ接セス
 又提出シタリトテ果シテ勝敗何レニ歸スルヤモ不明ナル
 ハ勿論ナリ尤モ支那ハ該裁判所ノ義務の応訴団ニ加入セ
 ルヨリ若シ白国ニシテ訴訟ヲ提起センカ支那ハ之ニ応シ
 テ法廷ニ立ツ義務アルモ右訴訟提起方法ニハ二種アリ即
 チ(一)兩國協定ノ上各自ノ主張案ヲ提出シテ裁判ヲ仰クカ
 (Compromise) (二)何レカ一国ノ单独起訴ノ二方法ナル
 カ目下ノ処白国カ何レノ方法ヲ取ルカニ付テモ決定シ居
 ラス支那側ニ於テモ(一)何レノ方法ニヨルヘキカ目下研
 究中ニテ何等決定シ居ラス而シテ仮リニ白国側ニテ該裁
 判所ニ起訴シ白国ノ勝訴トナルモ支那カ事實のニ如何ナ
 ル影響ヲ受クルヤハ頗ル疑問ナリ
 該裁判所ノ「ジャッジ」ハ選舉ニ依リ任命セラルルカ自
 分ハ右法廷ニ於ケル予備判事ノ一人ナリ最近支那政府ハ

四三七

十一月二十日 在中國芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂ニ関スル新聞論調報告ノ件

第七五〇号

(十一月二十一日接受)

日支通商条約改訂問題ニ関シ十一月十九日ノ晨報ニ梁啓超
 ノ署名論文掲載セラレタリ其要点左ノ通

(一)通商条約ノ改訂ハ挙国一致ノ要望ニシテ一党一派ノ問題
 ニ非ス条約ノ改訂ニ関シ吾人ノ最モ重キヲ置ク所ハ法權
 ノ獨立關稅自主ノ二点ナルカ右ハ支那カ獨立國トシテ存
 立スルニ必要ナル最低限度ノ要望ニシテ決シテ(脱)ノ
 要望ニ非ス

(二)条約改訂ニ関シ各國ノ執リ得ル態度ニアリ一ハ支那ノ國
 家生存自衛權ヲ認メ好意ヲ以テ改約ニ応セントスルニア
 リ他ノ一ハ各國ノ獲得セル不正当ナル權利ヲ確守シ根本
 的条約改正ヲ肯ンセサルコトニアリ各國若シ前者ノ態度
 ヲ執ラントセハ徹底的好意ノ態度ヲ示スヘク又若シ後者
 ノ態度ヲ執ラントセハ断然支那ノ要求ヲ拒絶スヘシ右ノ
 態度如何ニ依リ支那モ亦其態度ヲ自決スヘク何レノ場合
 ニ於テモ条文ノ末ニ拘泥セル形式的論議ヲ為スノ要ナシ
 (三)日支条約ノ改訂ニ関スル日本ノ回答ヲ見ルニ一見極メテ

好意的ナル如クニシテ実ハ然ラス日本ノ欲スル処ハ条約ノ成典の改訂ニシテ且六ヶ月以内ニ新条約ノ成立ヲ見サル場合ニハ旧条約依然存続スルノ立場ヲ固持ス

(四) 吾人ノ日本ニ望ム所ハ日本カ曾ツテ嘗メタル辛キ経験ニ鑑ミ誠意ヲ以テ友邦ノ国民的の要望ニ満足ヲ与フル為協力サレンコトニアリ外交上ノ辞令ハ吾人ノ欲スル所ニ非ス又中国ノ政情混沌タルノ現情ヲ口実トシテ故意ニ時日ヲ遷延シ若クハ関稅法權両會議ニ藉ロシテ今回改約ノ眼目タル稅法權ノ二大問題ヲ葬リ去ルカ如キコトナカラシムコトヲ望ムモノナリ

(五) 吾人ハ「ソヴィエト」式革命的外交ヲ好マス吾人ノ欲スル所ハ可能的範圍ニ於テ彼我双方ノ好情ト善意ニ依リ円満ニ条約改訂ノ大目的ヲ達セントスルニアリ然レ共若シ各国ニシテ從來ノ屢々執リタルカ如キ高圧的態度ニ出ツルニ於テハ吾人モ亦斯ノ如キ国々ニ對シ逐次条約關係ヲ断絶セシムルヲ辞セサルモノナリ

四三八 十一月二十二日 稲畑大阪商業會議所會頭ヨリ
齋藤外務省通商局長宛

日中通商条約改正ニ関シ建議ノ件

大正十五年十一月二十二日

大阪商業會議所

會頭 稲畑 勝太郎(印)

外務省

通商局長 齋藤 良衛殿

四三九 十一月二十七日 在広東森田總領事ヨリ
齋藤外務大臣宛(電報)

日中通商条約改訂問題ニ関スル新聞社説ニツ

キ報告ノ件

第二三三二号 (十一月二十八日接受)

往電第一九一号ニ関シ(不平等条約取消委員會ノ件)

日支通商条約改正ニ関スル建議

目下日支兩國政府間ニ交渉中ノ通商条約改正問題ハ我カ對支貿易及對支企業ニ關係スル所重大ニシテ吾人関西ニ於ケル商工業者ハ支那ニ於ケル混乱ノ現状ニ鑑ミ交渉ノ前途ニ對シ危惧ノ念ヲ懷クモノ尠シトセス仍テ本月二十二日大阪商業會議所ニ於テ京都、神戸、大阪三商業會議所ノ連合協議會ヲ開キ今回支那政府ニ對シ讓歩シ得ヘキ最小限度トシテ左ノ四項ニ止メラレタキコトニ決議セリ庶幾クハ政府ニ於テ最善ノ努力ヲ払ハレ条約改正ニ當リ對支貿易ト對支企業ノ維持發展ノ為メ特ニ留意セラレンコトヲ

決議事項

- 一、日支兩國重要輸出入品ニ對シ互惠の關稅ヲ協定スルコト
 - 二、支那ノ國定稅率實施ハ新條約調印五ヶ年後トスルコト
 - 三、沿岸貿易(内地河川ヲ含ム)ハ日支相互間ニ開放スルコト
 - 四、土地所有權ヲ相互のニ許可スルコト
- 右京阪神三會議所ヲ代表シテ意見開陳仕候

日支通商条約改正問題ハ其後当地ニ於テ多大ノ注意ヲ惹キ各新聞トモ連日北京方面ノ通信ヲ掲載シ居レルカ本二十六日國民新聞(政府機關紙)ハ右ニ関シ社説ヲ掲ケ先ツ北京外交部ノ軟弱無能ナルヲ罵倒シタル後日本ノ態度ノ老獪ナルコトヲ指摘シ最後ニ革命軍成功ノ曉ニハ一切ノ不平等條約ハ事實上空文トナルヘキヲ以テ此際全國國民ハ斯ノ如キ交渉ヲ當ニスルコトナク「プレストリトウスク」條約ニ對スル「レーニン」ノ態度ヲ學フヘシト論シタリ

北京へ転電セリ